



昭和二十七年

町立村上中學校

ある生徒の日記



近衛 朱瓦流



昭和二十七年

一月元旦 火曇



今年こそはガンバロウと希望にみちて起きるとラジオがかかっている。昨日も十二時まで聞いて今日もラジオ。町中は雪も雨も降らない静かな正月を迎えた。映画館ははでなせんでどこも満員だそう。文映の懸賞が十四等に当たりミカン箱をひと箱もらった。家じゅうの者も喜んでゐる。朝からもち腹で一ぱいである。夜もまた昨日買ったトランプで大いにさわぐ。今日の新聞はたいくつものであつて十二頁であつた。年賀状も十一枚くる。

一月二日 水曇

朝から道路は近郷から出た人出でごったがえしている。丸通のトラックが初荷をつけて何台も通る。小生も何かしら思つたけれどもただのんびりしているだけだ。初ゆめも先生と学校でさわりだりあそびでたいしたおもしろいこともない。午後からはs君が来てトランプなど大いにさわぐ。なお新聞ばさみもつくって今年一年のを貯めるつもりだ。うちの父も年始の客やらでいそがしそう。これで日記も二日目だがはたしていつまで続くかは？。

一月五日 土曇

今日の日課はいたって簡単である。八時半から元の小学校の級友たちと会比四十円の新年会開いて久しぶりに安澤先生の顔を見た。あまりさわりだり歌ったりしたので体がくたくたになる。

やはり元の級友はおもしろい。特に田村・鈴木・佐藤・高橋君などは！

終わりが四時で一時間ばかりこたつにねて又今度は町内の父兄の人も来て町内新年会というものを中学校の集会室です。人数は約百人で午前中の新年会とはちがうにぎやかなもので七時から八時半までの少数の時間をおもしろくすごした。会費三〇円

一月六日 日 雪 新年会

けたたましいサイレンにとび起きる。今日は消防団のデゾメ式とやらでにぎやかだ。朝食時に父母にひどくしかられ何も面白くない。小生と妹はひどく仲がわるい家じゅうでもたいしたものだ。おかげで昼食はぬき。父は営林署の新年会に行つてゐる。元旦から一週間にもならない今日、もう福でっもちはひびがはいつてゐる。

雪のない正月に久しぶりに雪が降つてきた。大滝先生にも明日は会えるはずだ。三ヶ月も留守にしていた先生だもの、誰もが会いたいと思う。とにかく今日は習字を書いたり、冬休みの整理で大わらわ、いわゆるテンヤワンヤだ。

一月七日 月 雪 学校始業式

昨日から降つた雪が積もり積もつて約三〇センチ、まったくあたりは銀世界。今日から学校が始まり、大滝先生とも合う、なつかしい先生だ。冬休み帳もどうやら仕上げ、これから三学期われらも、学校も、先生もなにやらどよめきにみちている。午後から親類のお姉さんが来て、家じゅうはにぎやか。二階に下宿している学生さんも三人であつて家下よりも又一段とにぎやかだ。風も強くなつた。何かしら冬になつたような気がする。この間までの「暖冬異変」とはちがつた気象。いっしょにねる兄も今日は映画を見に行つたので一人さびしくラジオをきいてねる次第である。

一月一日 金 雪

このごろ毎日母に呼び起こされる。もつとも夜寝る時間はいつも十時すぎだからな。学校では今日場所を変えてテンヤワンヤ、先生はあくまでももうしるで女の人たちにかこまれてゐる。

学校が始まってから五日目になつてゐる、学習も本格的になつて、せんせいもきびしくやかましくなつてゐる。変わらないのは我が先生、二年生はいつもおのんびりしてゐる。気候も冬独特の吹雪をまいてゐる。

世界の情勢も、トルーマン・チャーチル会談などがおこなわれて新聞紙上をにぎやかにしている。ラジオも毎夜かかさず聞いている今夜は夜ねるのを早くしようと。八時にはとこにつく。誕生日ももうすぐだ。

ああ映画見たい。しかし金はない。(佐々木小次郎、カルフォルニア)

一月十二日 土 雪

大相撲春場所始まる

冬はいよいよよさえて、道路はカチカチになり登校下校のさいは小生のあしだがめんくらう。そして道路はスケートなどで花が咲く。

冬休み学習帳の成績は、予想以上の成績で男子で一、二番によくできたそうだ。先生は「大変よくやりました、クラスの指導者として力強い努力を望みます」と記してあった。どれくらい出来るかはぎもんである。

春場所はいよいよ今日から始まりラジオのスイッチ入れたが終わったあとで打ち出しは四時四〇分だった。明日からは早く聞こうとあきらめる。

学校の「三学期目標」の学習の充実と校具の愛護についての標語と「私の希望」という作文の宿題にはめんくらった次第。

一月一三日 日 晴

兄が就職試験を受けに行つた後おきる。一人で八じょうの部屋に布とんを七枚をつかつてねたのは初めてであった。

宿題の標語は「独立日本 独立学習」、「勉強は身のため世のため国のため」、「校具をば自分と申つて愛護しよう」、「校具をば皆で護ればいつも楽しい学習できる」などである。作文は今考慮中である。どうにか仕上げたあとで、松竹映画「戦乱の花嫁」、「魔境のターザン」を見にゆく。やはりターザン映画は痛快である。見ていてもわくわくする次第。

ラジオの大相撲実きよう放送もまた痛快である。

今日は2人の兄が新潟、新発田と行つているので家中は日曜とはいえずよつとさびしい感じがする。

一月一四日 月 晴、雨

このごろ先生はいつも朝会やホームルームの時間などにいろいろとお説教する。大人になることや、「自由」ということや「幸福」ということなどについていう。人間の心には善の心と悪の心とがあつたはずなにかいいあいていてその悪の心をうちかつようなひとになってほしいとか、真の幸福を得るには希望がなけりやならないし、またその幸福の陰には苦勞というものがあるというようなことを色々と言つて、私たちがこのクラスを少しでも良くしていこうというような気持でいるらしい。私たちがしっかりしなくてはいけない。

明日は小生の誕生日で、休みの日でもあるので、ゆっくり風呂に入つて九時半、目をうとうとさせながらこの日記を書いた次第。

一月十五日 火 雨、雪

成人の日、誕生日

小生の誕生日 まず自分ながら祝辞を述べる。「おめでとう」とな。

朝から空模様はあまりよくない。朝から母にしかられコウリや机の引き出などどみな投げ出された。小生もカンカンに怒つたので、かたずける勇氣もなくそのままこたつにもぐりこむ。そのまま一、二時をむかえた。かたずけたのは春場所の放送がはじまる直前、ラジオの置き場所も今日限り小生のいる十じょうの部屋から別れる。ちよつとさびしさを感ずるが勉強には好都合。成人式が各地であつたようだ。今日は外出いっぺんもなし、ただのんびりとくらす。今日はまたくだらないことをのべたものだ。明日は張り切つて学校だ。

一月十七日 木 雨

今朝外は昨日降つた少しの雪でそこに今雨が降つているので道路はびしょびしょになつていいる。

英語の先生も今日から変わつて七十才くらいの爺さんみたいな人である。前の二十歳くらいの人の後にはとてもへんである。

国内情勢も遺家族金の問題でもめていいるようだ。春場所大相撲もつぎつぎに進みいよいよはらんをよんでいる。今小生はラジオ病である。全くラジオなしてはいられない。朝 起きて時間をしらべのためにラジオをかけている。学校から帰ると今ではすぐにラジオのスイッチをひれる。そして横になりながら夕方の五時まで相撲を聞いている。あまり夢中なので家じゅうでも時々問題が起ることすらあるくらいだ。夜は九時まで聞きながら帳面整理だ。あまりよくは頭に入らない。そこで時々母にしかられる。

今歌の本をかりてきて流行歌を歌つていいるが、変声期のせいかなり良い声は出ない。今日は日記帳の関係上二頁もつかつた次第。

一月一八日 金 雪

雪はすっかり積もつて三〇センチにもなつていいる。今日からいよいよ長くつをはいて頑張りながら学校に通う。学級では百円紛失事件でもめていいる。



習字の時間に先生にほめられる。もっとしつかり書かなくてはならない。

世界では、米ソのはげしい対立（キシレンコ対シーボルト）などは厚生大臣の辞職などでわいている。スポーツも春場所おおいにはらんをよんでいる。羽黒、千代、吉葉はまだいぜんとして全勝である。

家では親類のお客が来てしばらく遊んでいったので小生はラジオを聞かないでしまった次第。

一月十九日 土 晴

今日の土曜日もう一段と雪が深くなり、我々にとっては良いのか悪いのかけんとうがつかない。学校のクラブ活動の製図の方も墨入れに入っている。学級ではバスケットの選手に選ばれ、先生からは弁論大会に出す予定などといわれてぞっとした次第。しかしどうせするならしつかりとした元気のいいところを見せてやりたい。外もスキーができるくらい。夜は母が映画を見に行っているのぢよっぴり寂しさを感ずる。

一月二十日 日 雨

朝からびしょびしょと冬にも似合わない雨が降っている。雨が降っている日曜ながらゆっくり寝ようと思おうとかえって早く起きるような気がしてならない。今日は先生がいった、一日「二時間」の勉強を守ろうと思ったがいがいにも妹たち大勢きて、思う存分でできず子どもたちと一緒にさわぐしまつ。これがほんとうの「意志の弱い」というところ。わづか数学の宿題をしたのみ。夜はラジオが面白くとても勉強などできない。ラジオを聞いてから、風呂に入ってからなどといっているうちに、もう小生の床入りの時間となる。この日記を書いている万年筆のワレにはまいってしまふ。せめ万年筆くらい買ってくれてもよいのに。

一月二十一日 月 雨 大寒

昨日、今日の雨で雪は半分もとけかかっている。学校では大滝先生が留守で教室はざわめいている。バスケットの学級対抗も明日は小生の組と一組だ組み合わせは次のとおり、五組対二組の勝者と三組、四組対一組の勝者と六組。胸のわくわくしているくらいだ。きょうから学校の要望でかねてから新築中であつた便所も今日完成、我々は一気にとびこんだ。なかなか広くまたりっぱなものであつた。

夜から風も出てきて部屋では兄と一緒に寝るのであるが、その兄が留守でちよつと淋しい。風があるのでくれぐれも火の用心。

一月二十二日 火 晴 学級対抗バスケット大会

朝から胸がどきどきしていたが、夢のようにすぎていよいよ問題の時間三時四十分がきた。我々二年四組代表は一組と対戦する。初めのうちはあがつて先取得点とられたが先生の作戦をよく聞き入れて最後6分クオーターの時間に差の四点をばんかいしなくてはならないのだが、それがよくきまつて作戦の進行が成就、鈴木君の二シュートきまつたところぢよっぴり時間がきた次第。我々は一二対九で第一戦勝つたのだ。やはり勝つた時の気持ちは明るいものである。家に着いた時にはもう暗くなつていた。

一月二十三日 水 曇、雨 国会開催

きのうの気持ち良い心は今でも続いている。学級内でもその話でいっぱいだ。先生もまた我々選手をほめたたいている。こんどは六組とだがぜひとも勝ちたいものである。

きのうから第十三回通常国会が開かれたが、またまたはげしい論戦になりそう。弁論大会も小生にはかんけいなくなつたようぢよっぴりうれしいようなまたくやしいような気がする。学校からかえるとすぐ三年生のバスケットを見に行つたがやはり三年生だけあつてまことに上手である。見ている方でもハラハラするような場面があつた。大相撲の羽黒山いぜん全勝はたのもしいものだ。

一月二十四日 木 晴

あのくらい降つた雪がほとんど消され、わずかに両脇に山となつてどの家もつみこまれてある。羽黒山今日も照国を寄り切つていよいよ優勝か。

我々もバスケットの作戦によねんがない。今日は帰つてからすぐめづらしく勉強にとりかかり数学、理科、社会、文法とそれぞれ予習、復習と取り掛かり宿題をすませると、家じゅうはみなしづかになつてねたあつた。

このぶんなら明日の学習がたのしみだ。

一月二十五日 金 曇

きのういっしょうけんめいにしたかいがあり、今日は文法などの学習もじゅんちように進んだ。職員会議で午前中で学習の方は終わりになり。すぐ家に帰る。いよいよ明日はバスケットの準決勝でぜひとも勝ちたいものである。今日一月分、学校、学級の会計の金集めがあり、貯金も約九百円ぐらいになり三年生の修学旅行が楽しみである。佐渡、日光、十和田湖などを予定しているようである。今頃分数の勉強したくない。

一月二十六日 土 雪 大相撲千秋楽

朝から胸がわくわく何といっても勝ちたいものだ今日のバスケット大会。朝会もなく一校時はH・R、二、三校時とクラブ活動。我々製図部は今スートの製図たけなわ、簡単なようでなかなか難しい。四校時はまたH・Rで分数の割り算の練習。「わかつている人にはすまないが、わからない人は良く聞け」と先生は一生けんめいである。我々四組の選手は二時には学校に集まって他学級の試合を観戦、二時にはもう始まった。試合前のわくわくもなおりましたっかりやろうという気だけである。前半我々リードしたが、又ばんかいされてついに延長戦となり、前田、中沢のシユウトが決まり十六体十四でやつと勝った次第である。

一月二十七日 日 晴

朝からよく晴れている。校内予備テストなどひかえているので、勉強しようなどの気持ちはあるけれども、妹などがさわいでいたりすると、やっばりそっちの方に気がむきつい一緒に遊んでしまう。宿題は昨日のうちにやっておいたからよいものの・・・午後からも裏で女子軍と雪合戦が日の暮れるまで。女子軍はついに泣く。

風呂をたててゆつくり休もうと思ったのもつかの間、すぐ映画に連れて行ってくれとたのまれて松竹館へ(凸凹やじきた道中 一番手柄)を見にゆく。すこしばかばかしいところもあったが、たいへん愉快であった。あまりおそくなつて一〇時半に寝るといふ、近頃にないこと。

一月二十八日 月 雨

思ったより早く起きることが出来た。学校ではこの間の「学校目標」につ

いての標語の発表がありそれをわれわれが一つ選んで入賞を決めるといふ変わったやり方で選挙した。なかなか良いものもあり、ここにそれらを書いて小生も学ぼうと思う。

「徹夜するより 日頃の勉強」・「人に頼るな 自分に頼れ」

「苦心の歩み 希望の丘」 ・「美は掛け声よりも 心がけ」 など

であった。小生の出したのは一つも出でいないのがっかり。

一月二十九日 火 晴 校内バスケット大会各学年決勝

ようやくの日が来た決勝の日が来た。今までのうちもつとも強敵三組との対戦。我々選手は二年生全部の観戦の内に火ぶたは切られた。前半よく戦いはじめリードし、おいつかれ、同点となり後半に持ち込む。後半ややつかれが出てきたが、よくがんばりリードを保つ。講堂はやんやとわれかえつていく。ついに同点にされラスト三十秒というところで四点とられ残念ながら三組に敗れた一戦であった。一回戦で負けると思ったのだから決勝まで来たのが夢のように決勝で負けてみてみてもそうやたらにくやしくはない。しかし先生や級友諸君に申し訳ない。

一月三十日 水 雨

きのうのあの元氣あふれる戦いが終われば、敵味方とも仲良く勉強した。きょう一年生時の恩師、板垣先生が休んだどうしたのだろう。

今日は三年生の教科書が来たのでみんな三〇〇円、二〇〇円という大金をもって登校している。小生も三〇〇円をもって本を買う。8冊で二九九円であった。まだ数学、国語などの本は来ていない。本屋さんではてこまいである。母などが言った通り一通り見たが、興味ある学習ができるのじやないかと今から楽しみにしている。しかし来年の今頃は入試の準備で騒いでいるだろう。

日記を書き始めてからもう一か月になる早いものだ。

一月三十一日 木 曇

昨夜おそくまでコーヒーなど飲んだためあまりにも興ふんしてねむれなかった。たしか十一時の音を聞いて寝たようだ。今日はまたからりと晴れて



はいるが、雲の色がよくない。午後は大雨となり昼上がりなどは衣服が大いぬれた。六校時のサイレンとともに家の人にもだまって松竹館へとぞ。映画は「大城塞、一番手柄」期待したほどでもなかった。しかし砂漠の感じが出てスリルなどもあり大いに感動した。「一番手柄」はこれで二回目なので何とも言えない。帰ったのは七時でもちろんしょくじはすんでいた。

二月一日 金 晴 世界卓球大会（ボンベイ）

今日は朝からからりと晴れている。登校のさいのアシダの音がきもちのよいほどカラカラとアスファルトの上に音を出す。

こうしやのカベには毎年出す「生徒会報（自治会報）」が発行されるため原稿募集である。講堂、廊下、トイレに教室の中まで、相撲、相撲でおおあばれ。小生も友達と取組、ボタンをはずしたり、ズボンを切ったり、何しろ相撲が大はやり。

今日は田舎では正月元旦であるが、このへんではいつこうそういう気持ちがない。人間の気持ちも時と場所によっては変わるものとは、これ教師のいったことなり。今日も一日鶏は何もエサを食べないで寝てしまった。誠にかわいそうだ。

二月二日 土 雨、雪

朝早く起きてニワトリにえさをやる。毎日ほんの少ししか食べていない鶏は喜んで食べている。

学校へは毎日一緒に行く伊狩の英志君に先へいってもらう。朝会にはこの間のバスケット大会の賞状、賞品がくばられた。準優勝の我々には何が来るだろうと楽しみにしていたが、ただの賞状一枚であった。

今日から張られた学級目標の入選が講堂の表面に張られた。

「徹夜するより、日ごろの勉強」

「自覚せる、使用に宿る責任感」 の文句をを全校生徒が校長先

生の後続いて大きな声でさげんだ。

あちこちに初午のたいこ音が聞こえる。

二月三日 日 雪 世界卓球大会（ボンベイ）

朝いつもより早く起きるのは、いつも同じである。日曜となると早く起き

るのである。早く起きたところで何も手伝いをすることもなく、床に入ったり出たりしている。今日待望の「中学時代」を買ってぐつと読み通す。なかなかおもしろく興味深くなってきた。内容は学習の方がおおくかかれてある。付録もなかなかよい参考になるものである。

一〇時ころに床を上げ勉強一つせず日の暮れるまで読み続ける。懸賞の試験を出そうと思うが、むずかしく出来そうもない。夜になってあわてて論語の宿題をする。新聞もなかなかにぎやかで、「硫黄島」のことや「日比バスケット大会」などが大きく書かれている。

二月四日 月 雪 節分 校内弁論大会

およそ三〇センチは降ったと思われる。雪をふみながら学校へ行く。今日は月曜日でおくれてくるものも少なくなかった。午後からは大雪であったのが道路がカチカチになり歩いても苦難な次第。

今日は校内弁論大会が開かれて各自の意見を聞いたが、なかなか感動させられるものもあつたが、本の明読のようなものもあつた。小生もクラスの候補者上がったのだが、雅夫くんにゆづつてやる。来年こそは出てもよさうだ。節分だというのに「鬼は外、福は内」の声は聞こえない。

二月七日 木 雪

イギリス ジョージ六世 死去

二日も書くのをサボってしまった。なにも目立った行事もなくこれぞといった記事もない平常どおりの学校へ行く。校舎が古いせいだろうか雪だらけでとてもはだしでは歩けそうもない。大工さんが急いでガラスを入れている。始末。先生が「戦争がなかったなら」という本を連日読んでくれている。とても悲しかった満州の敗戦のすがたを一人の中学生が書いた本で、とても悲しかったことがよくわかる。体操のをして 時間に校庭でラクビーをしてこの寒いのに汗をかく。久しぶりに長く伸びた髪を刈ってさっぱりする。

二月八日 金 晴、雨

新聞はイギリス国王、ジョージ六世の亡くなられたことを大きく書いている。後をつぐのがエリザベス女王であるが女が国王ではちよつと変な気がする。とにかく惜しまれてあちこちからメッセーじが送られているもよう。

三時学校の放課後、映画「紀元前百万年前・凸凹持ち逃げ騒動」どちらも

洋画で紀元前のほうは大体トリックであるが、とてもよくできていて、原始人の生活がありありとわかり、ハラハラする場面もある。凸凹の方はあいかわらず皆を笑わせる。

二月九日 土 雪、雨 新党「改進黨」発足

そう寒くない朝を迎えた。土曜日なので授業もなく製図用紙一枚をもって学校に行く。朝会ではおとくいの校長先生の歌が今日もまた大きな声で歌う。クラブ活動では今日から校舎の平面図を作図することになった。夕方まで寝て風呂の水くみをわすれしかられる。

二月一〇日 雪

九時半に食事をすませ寝ながら数学分数の計算をする。兄と一緒にこたつにはいつているのはとてもきまりがわるい。ただなんとなく、ひとりであるのがこのむようだ。兄も又その方だろう。

午後から勉強でもしようと思つてるところへ妹の友達が遊びにきて、とても出来るようではなくついそつちのほうへいく。夜の風呂に入りラジオをききながら日記を書く。自分の部屋でラジオをきくのもひさしぶりである。

二月十一日 月 雪 校内卓球大会

大分消えた雪がまたふり出した。今日からまた二月行事の一つでもある校内学級対抗の卓球大会が始まった。小生は出ていないが小町の中沢・山崎君がいづれも活躍、そして伊東と女子の三人を交えて善戦、ついに五組、二組とストレートで破りバスケットとまったく同様の決勝へと勝ち進む。

二月十二日 火 雪

今日雪は降り続けている。大滝先生が休み、集会なしに大急ぎで清掃する。今日は卓球大会の三年の決勝があるはずだが、かまわず文映の二本立て映画（怪傑鉄仮面、無法者の群れ）へと急ぐ。初めの映画は日本の時代劇、宮城野由美子の大活躍に、もう一つはアメリカの西部活劇映画でエロール、フリンのあい変らずの痛快もの。帰りは七時になる。

数学の宿題が多くあったのでとりかかったが、よく出来るものじゃない。三五〇円のお菓子のうまいこと。

二月十三日 水 雨

朝起きると兄は出たあとであった。あまり食べ物も進まない。学校の努力目標の一つ「進んで勉強しよう」の試験がちかづいた。今日予定が発表されみんな、わきたっている。毎日家へ帰って勉強しよう、勉強しようと思つてはいるけれど雑誌その他で時間はつぶれてしまう。

卓球大会の決勝が放課後行われたが、強敵三組を下し晴れの優勝をした。バスケットと同様大熱戦であった。図画の図案が面白く帰るまで書く。今日は兄が久しぶりどこへも行かず一緒にいる。

二月十四日 木 曇

冬季オリンピックが始まる（オスロ）

試験をまじかにひかえていると日がたつていくのがとても速く感じる。数学の宿題がたまっているので帰ってきてからすぐ取りかかる。冷たい風が部屋のすきまから入ってくる。学校から帰ってくればすぐ制服をぬぐ習慣になっているが、今は小さくなって、カラーの痛さが感じるくらい。ズボンももうすぐ切れそうだ。去年の冬から着たきり一枚で、洗い変えがない。早く新しいのを買ってくれと父母のせがむが、家庭の経済上ゆるささない。しかたないと思つているが、また何とかならないものかと思つている。

二月十五日 金 曇

朝起きて雪で顔を洗う。洗面所は下宿して泊まっている学生さんでいっぱいだから。中部郷の卓球大会が開かれていた。四台の卓球台の上で汗ばみながら真けんな表情でしている。

図画の図案も出来上がり、数学の宿題もよくやったとほめられる。目下負の数の加法、減法でせいっぱいである。

ストーブの周りに集まって世間話に花を咲かせる。父の帰りは今日も遅い。今日も友人の中沢君は叔父の死のため学校を休んでいる。

二月一六日 土 曇

中沢君のところの葬式が今日行われた。学校ではクラブ活動はなく、朝会では各賞状、賞品の授与があった。

「Gesstest」という学業に関係ないおもしろいテスト

をした。各項目にはヒントが出ていてそれに当てはまる人が下のらんに書くという風変わりなテストを一二〇分もした。

富男兄が長岡へ試験を受けにゆき、父が湯沢より今日の午後帰る。来週は試験シーズンなので、小生本を広げているが、果たしてどういう結果がうまれるやら。今回のテストは得点を発表するというから、ぜふとも、うとうとこらだ。

二月一七日 日 雪

ゆっくつり寝ていようと思つたが、とてもだめだ。明日からは試験がはじまるのだからと思つて、本をひろげる。一〇時に床を上げ部屋を清める。兄の可愛がつていた小鳥、やまがらが、一昨日どういふわけか死んじゃつた。かわいそうに。今日からはその澄み切つた鳴き声がかかれぬ。本間さん宅の坊や「進」ちゃんが迷子になり大さわぎとなる。さいわい庄内町でみつけたからよいものの、遠くへ行つたのならまだ見つかつてはいないだろう。待望の冬季オリピックが始まつているが、二〇位、四〇位では期待がでない。

二月一八日 月 雪

一斉テスト始まる

まちにまつた？試験がはじまる。国語の方も予想より簡単ではあつたが、漢字の読み、文法などまちがつたらしい。音楽の方も勉強したかいがあつてそう悪くもない点らしい。作曲者の名前にはまいった次第。明日は社会と職業だが、本をよく読めばわかると思つたが、読むのが面倒な気がする。なにしろ六冊の本だから。母にしかられ夕食はモチ三ヶで終わる。

二月一九日 火 曇

一斉テストと2日間、社会・職業が行われた。昨日の点が国語だけ発表され八一点だつた。クラスの平均点が六七点。音楽もそのくらいだと思つた。

今日の問題は社会の方は時事問題もだいで出ていた。津島全権など各国の首相なども出た。トンネルの問題が全部間違つてこれも八〇点くらいかな。やっぱ勉強不足だつたよな気がする。明日こそはと思つて数学の本を開いたが、これも小生の不得意学科ときてはぎもんである。

二月二十日 水 曇

今日こそはと思つてやつたのだがどうも心配である。しかしあまり悪くないようである。数学、図画と試験は終わる、教室で便所で廊下でと寄つてたかつて試験の話。家に帰つてから最後の美をかざろうと夕食を八時にくりさげ理科の本と、保険の本をつげさまに読む。うとうとと眠くなつてくると洗面所へ行って顔を洗つてさっぱりして冷たいお茶を飲み又はじめる。兄が遅く一〇時ころ帰る。酒によって何回もはいてウンウンうなつてゐる。時計は一一時を打つ。最後に総仕上げをして、やつと床に横になる。

二月二十一日 木 曇

今日の理科、保健体育とおえて、全部試験が終わつたわけである。成績は放課後クラスの役員が残り整理をする。成績は次のとおり。
音楽八十七点クラス男子で一位、社会八四点順位未定、理科八八点五位、理科八八点五位、職業九一点五位、国語八一点三位、図画八五点三位、数学八〇点三位、保健八一点未定。得点合計五九三点、平均点、八四点。となる。クラスでは悪くないようである。母から言わせれば広い部屋で一人で勉強しているのだからこのくらいの点は当たり前だと言つてゐる。また学年全体ではぐつと落ちるだろう。

二月二十二日 金 曇

やつと試験がめでたく終わった。今日も放課後試験の整理にとりかかる。まだはつきりとした点はわからないが大体よく、クラスの五番以内にははいれるだろう。夜はこたつにあたりながら一週間目より習つた正の数、負の数の計算を帳面に整理する。試験が終わつてもなんだか落ち着かずウキウキしている。

二月二十三日 土 吹雪 学年反省会（礼法室）

朝から強風が雪をも交えてよこなぐりに降りつづいてゐる。学校の朝会に校長先生より昔の偉い人たちのお話を聞き努力、がまんが大切と言ひ聞かされこのところ毎日のように反省のようない口で言つてゐる。二校時に学年の反省会があつて二年一か年の歩みをかえりみたが、良い

ことよりも一般に悪かったようなことが、多かったように思われる。

希望は注意が多く利己的な考えをあらためもつと自覚した人間・学生・子供になれば先生方の言葉であった。今日から会計の方がはじまり二ヶ月分九〇円と貯金九〇円の計一八〇円おさめる。

二月二十四日 日 雪 群下卓球大会 新潟県のど自慢決勝

別に宿題はないが予習でもやろうと思つてようやつと十時にとびおき朝飯を食べる。製図で校舎の平面図を書いて休んでいると、もう十二時ちよつと百円をしっかりとつけて松竹館へと向かったが気に入った映画ではなくひきかえず。新潟県のノド自慢大会決勝とあつてラジオはテンヤワンヤ。村上代表は歌曲で第三位であつた。

今日から久しぶりにラジオがまた吾輩の部屋にもどつてきた。風呂に入りながらも聞かれる。ラジオ、新聞などでさかんに純潔教育が叫ばれている。また各警官との暴動もあちこち学生らも交えて事件が起こっている。さては日共の計画とおもわれる？

二月二十五日 月 雪

朝からラジオを鳴らす。しかしいつ聞いても面白くないまでもあきないものである。試験も終わりゆつくりした勉強態度である。ただ心配なのは今週中の英語の試験である。なにも勉強していないものでななおである。

午後から放課後柔道の畳開きがある。行きたかつたが、保健その他の帳面整理でいっぱいですぐ取りかかる。新番組「三つの歌」は人気第一である。

二月二十六日 月 吹雪

オリンピック冬季大会終わる

今学校では卓球大会が終わつたあとでピンポンがたけなわ。三台の台はいつでも満員。教室では机を合わせて黒板吹きの手ケットで順番を待つて一列に並んだいる。あきれたのは床にはくぼくを引いてやつているのである。時間が終わるとすぐ走つて行つて台の取り合いである。

放課後、机を合わせて卓球を級友と日の暮れるまでやつて、ほつと暖かい汗を書いた次第。夜はラジオを聞きながらパンを食べる。オリンピック大会の今日やつと一二日間の幕を閉じた。日本は一七位。

二月二十七日 水 小雪

やつと間に合つて始まる前に教室につく。何といつても登校、下校のさいに道路のわるいのが一番つらい。道路はトラックの車のあとが、二すじに二本深くほれてそこにとけた雨水がたまつてとても歩きにくくなつてい

ちよつとパン問題でもめてい

新聞で国会のもめてい

二月二十八日 木 晴

今日試験がある予定だつたが、午後から職員会議のため家庭学習というわけ

で試験はなくその反対に紙一枚の分数の宿題でおよそ二時間かかつてな

二月最終日 金 晴

今月も今日で終わり。明日からは三月、三月となればやはりあたたかく雪

もだいぶとけてい

午後から三時間もピンポンをした。卓球をしてい

三月一日 土 春三月ともなればさすがはかぼかとあたたかくなつたよ

うに感じられる。高等学校の卒業式とあって、次兄も今年卒業する予定で、いまだ就職も決まっていないが、これが父母のなやみの種となっている。校長から思いやりのあるためになる話を聞かせてもらった。

もう二週間で三年生である。今から三年生、一か年の計画を立てる。参考書の「中学時代」を読んで胸が高鳴ってくる。希望にみちて迎えなければならぬと思っている。英語の試験ものびて月曜日になったのは良かったような、また勉強が必要になったとあいまっている。どっちみちもう学期末の勉強しなければとおもっている。一一時まで本を見る。

三月二日 日 曇、晴

七時半起床。一〇時朝飯をすませ「中学時代」を読みふける。映画代ためておいたのになくなりがっかり。正午までに裏の雪をのけて道をつける。表はからからとかわいているが裏はまだまだ雪が多い。おかげで一汗かいてほつとする。

松竹の映画を見にゆくひさしぶりに子供代ではいる。子供代といっても四〇円でたいしたもの。日本映画の「天使も夢見る」。人気の焦点、二大俳優の競演、鶴田浩二と津島恵子である。ちよつとユーモアのようなものもみられた。他は「女優名探偵、ワールドシリーズ」

三月三日 月 小雪

昨日あたりはだいぶ良い天気であったが、きょうはかせまじりのゆきがふついていた。職員に用があるというので午後より休みとなる。家の者にだまつて映画を見に行く、昨日と同様松竹での二本立てである。海洋戦争映画「北大西洋、テレビジョンの王様」あまり映画を見てすまないと思っているけれど……しかし非常に面白く、たいへんゆかいであった。

三月四日 火 雪 父兄会

今日は父兄会があった。うちの母も出ていた。五校時は授業参観とあって、小生らの後ろには父兄の人たちが何か話しているようで、ろくろく勉強できなかつた。今日も友達にさそわれて、映画（熱風の街、荒木又右エ門、ゴリラの足跡）を見に行く。おかげで明日買う本代が足りなくなってしまう次第。後はいかないと父母に約束する。

今日の父兄会についてあれこれとしゃべっている。英語のテストも九点で悪くはない。後は学期末のテストだけだ、ガンバロ！

三月五日 水 晴

薄暗いうちに起きて国語の本を読んだが長続きしない。東の空より明るくなりとても気持ちの良い朝である。やはり早起きは良いとつくづく思う。今日また三年生の教科書が来る。大分面倒なような気がするが、興味深く感じられる。いよいよ試験シーズンも近づき、不得意の数学理科図工などがあやぶまれる。今日は久しぶりに家に帰ってすぐ本を開いたのだが、どれだけたしになつたかはわからない。しかし方程式にはまいった、何ぼ考えてもわからないのが二つ三つある。

三月六日 木 晴

またしても向かいの三條屋のお母さんが亡くなられた。この間は中沢君とこの人、昨日はこの三條屋、樋口さんのお母さんだ。うちの母も悲しがっている。何で人生なんてあつけないものだろう。この間まで一生懸命に働いていたのがちよつとの病気で倒れそして永遠の眠りに落ちていくのである。それを思うと小生もついほろりとさせられる。

放課後また例の先生の説教がはじまった。ただなにもしないで夕方の暗くなるまで教室に残された。理由は先生のいるときはおとなしく留守の時はさわぐといういわゆる二重人格ではだめだということ。

三月七日 金 晴

きのう夜は一〇時から一二時まで寝てそれから二時まで漢字の書き取り、六時に起きて又ははじめるといったところ。それで今日の国語は文法の問題がちよつと間違つたらしい。それに続いて体育、図画の試験が行われた。

卒業生を送る予選会の劇に小生はまた出る事になった。劇の内容は大人くさいところもあるがよく出来れば大したもの先生方は云っていた。そして明日まで暗記してこいとはこれまた無理なこと。

三月八日 土 曇

午後からはつきり決まった劇の練習があつた。小生の役はシャイロックと

いう悪人役になるのだが、しぐさがむつかしくたいへんである。二時より練習を始めたが、顔なじみの大場、加賀、佐野などの人たちも共演である。女は二人しか出なく益田、唐津などが加わる。先生方も藤井先生はじめ女の先生方三人が指導してくれることになる。
夜はセリフの暗記で試験勉強など手がつくはずがない。

三月九日 日 晴

日曜日だというのに、朝からセリフの勉強、劇中で小生が一番多くしゃべるのだからよいでない。午後から学校に早く行って卓球、しよぎなどして劇の練習を待つ。やはり三日目となれば少しは上達したようである。いちいち先生方の指導の下に、我々は一生懸命である。もう三日しかないのだ。試験どころのさわぎではない。夜は小道具の鼻ひげ、剣などつくったが、あまりよくいかない。

三月十日 月 雪

予選会の劇に父母や、兄、妹の協力があつてほしい準備ができたようだ。がむしやらかな鼻ひげは父がまるみやさんからかりてくれたし、衣装は母が用意してくれた。羽織を裏返しにしてみたら大変よく似合う。帽子に付ける羽は三十センチもあるキジの羽をどこかの店先で見つけそれを借りる。小道具の肉を切るほうちよう、それを測る図り、それに帽子などは級友から借りた。小生もこんなに張り切れば先生方も負けないと五人もの先生方が集まり先生方が劇をするような格好になってしまふ次第。

三月十一日 火 晴

朝ひさしぶりにラジオ体操をした。やっぱり気持ちのよいものである。それで今日の理科の試験でほしい終りである。きのう数学は不注意から三十点くらいは引かれるもよう。今日の理科はかんちがいからまた二十点は引かれるよう。社会もどうよう。
午後から先生方の職員会議で先生なしで劇の練習をはじめ。しかし先生方も気がでないらしい。かいぎをさぼってやってくる。夜は小道具のほうちようとくびかざりに銀紙を張る。

三月十二日 水 曇

朝二日もたまった日記を書く。劇の練習も今日が最後である。生徒も先生も一生懸命であった。時間中もつぶしてうんとやる。今日は何といつても試験はなくのんびりした勉強風景だった

天候もはれたりくもったりで、面白くない天気。

今日もまた天井文房具屋さんのおじいさんが亡くなられた。これでここの月の間で近所の人が三人もなくなっている。

何としても明日の劇のことで胸がいつぱいだ。風邪気味でのどをいため声を出すのに困難なのが心配である。

三月十三日 木

予選会

今まで練習を続けた劇も今日が最後で全校生徒にこうかいした。あんまりよいとも悪いとも言わない。先生方の劇や、三つの鐘、その他舞踊や唱歌などいろいろあり三年生を送った。

三月十四日 金 晴

天気も一日一日とあたたかくなり青空も多くなってきた。試験の数学、理科と返ってきたが今までの最も悪く、七九点、八〇点であった。うちの人にみせる気がなくかくしている。学級でも学年末で忙しく小生も学級図書書の整理で放課後遅くまで残る。夜は兄弟でラジオを聞いて寝る。

三月十五日 土 晴

グラウンドも半分以上雪は解けて気の早いものはもう野球をしている。校舎の製図も出来上がり何もかも最後の仕上げによねがない。

四校時に学年全員集まって三年生になったらという題で計画会が開かれた。午後から新年会をしなかつた代わりにするクラス会の計画を立てることになった。あまりつまらないプログラムでもなさそうだ。

三月十六日 日 晴

九時起床。九時半朝食、どうも体の調子が悪い。あたまがおもくふらふらして、せきも多く、たんがでる。父母は心配してくれて医者に行けというが、

行く気にはならない。寝たり起きたりしているが、寝た後もどうも頭がふらふらとして具合が悪い。なにを食べてもうまくない。

一週間もつづいているかぜがわるくなつたのだろう。無理しながらバリカンを借りてきて髪を刈る。さっぱりとしたが寒くて帽子がはなせない。野球シーズンも近づきプロ野球のオープン戦がはじまっている。帽子をかぶりながら寝る。

三月十七日 月 曇

朝早く起きた。きのうとくらべて体の調子は良い。学校を休むほどでない。クラス会のことで学級はわきかえっている。学級図書も配給も終わりさっぱりした。学年末で先生方も忙しく小生の修学旅行貯金もやっと千円をこしたばかり。明日のクラス会に小生は浪花節をうたうことになった。ちよつと心配である。今日も三年生は講堂で受験準備に余念がない。

三月十八日 火 晴

クラス会

朝起きてどうも頭が重くふらふらしてよく歩けない。気持ちが悪い。食事もとりにたくない。学校へもやつと行く。これでは午後より開かれるクラス会はあるじられる。一校時の社会の時間にはぐつと寝ていた。

どうも頭がおもい。やつとこのことで昼食をとることができた。しかししかなかった。気分が一変して気分がよくなってきた。余興、団体ゲーム、先生の余興と相まってずんずん時間が進んでいく。小生の晩になって浪曲を歌う、あまり上手でない森の石松を……。最後はホテルノヒカリを全員合唱して終わった。

三月十九日 水 曇、雨

終業式

学習道具はいらず手ぶらで登校。昨日とは変わってきもちが良い日。毎日あつと何日と数えていた日も今日と明日と行けば二年生は終わりである。

今日の日程は初めに講堂で終業式、二校時は大掃除を行いさっぱりしたところで明日の卒業式。その卒業式の練習で例年通りいすを持って講堂に入る。四校時、立ちながらホームルームをして通信簿、自治会報その他をもらう。学業成績も悪くなくむしろ思っていたより良くなっている。しかしゆだんはできない。

三月二十日 木 雪

卒業式

祝卒業、祝進級。晴れの卒業式を終えて長かったようで短かった二年生を完了した。いつもと変わらない式場で小生らは一番後ろであった。

次兄の職業についてなやみつづけてきたのも今日で終わり、非常勤であれうれしい。後は小生の勉強次第、三年生の計画を立てようと思つてもけんとうがつかない。

雪は朝から降りだしどんどん降ってくる。そして昼頃にはほほきえていく。春とはいへまだ早春の早春というところ。

三月二十一日 金 晴

電話局主催町民卓球大会

今日から春休みに入る。宿題はないとはいえ三年生の準備その他で忙しい休みだと思ふ。とは思つていらながら今日、友達にさそわれ映画を見に行く。母は一生懸命おはぎつくりをしている。映画は時代劇と西部劇「慶安秘帳・コマチン族の怒り」とあつてとても面白かった。帰ってきてさつそくおはぎを四つもおぼくつく。午後前田君の所へ遊びに行く。たいしたおもしろくもなかったが、三時までも遊んできた。

三月二十二日 土 曇

二日目の春休みたいてくつなのは私一人ではないらしい。卓球と石ゆみ等でひまをつぶしている。久しぶりで市場を一回りしたが食べたいもの買いたいのばかりであり、あまり好ましい場所ではない。ちつぽけなおもちやを買つてくる。小学校の終業式とあつて辺りは静かである。

前から考慮中の三年生受験計画を立てようと思つているのだが計画表だけ作つてねる。

三月二十三日 日 雨

高校入試の日

日曜というのに小学校では春雨をついで卒業式である。雨はしきりに降っているが、春雨とあれば何か希望がわいてくるような気がして、日ごとに暖かさを感じる。しかし朝夕はこたつが恋しくなるときもある。

兄たちが休みで午後からは一緒にラジオを聞く。放送開始二十七周年記念とあつていろいろな面白い番組があとからあとからと聞こえてくる。

いくら春雨とはいえやはり雪は虫が好かないようである。

三月二十四日 月 雨曇

また今日も雨である。いくら春雨でもまるで梅雨みたいだ。床は十一時に挙げて部屋を片づける。石弓おおはやり、雨の中でも打っている者もいる、まだ小生は作っていない。

夜 計画表にちよつと書き入れたがなかなか計画らしいものは浮かばない。

三月二十五日 火 曇、雨

朝早く石弓をもって裏の安善寺の林に、墓に飛び回る。雲が多く風も冷たい。午後から下小町の船山君にヤマガラをもらった。以前に家では兄が飼っていたが今はいないので今度は小生がかわつて飼うことにした。小鳥は船山君の家でどんなふうにかわつていたのかわからないが、あまり元気がないようである。餌と巣つくりにさつそく取りかかる。

今日は高校入試の合格発表である。とても賑やかそうだった。小生は石弓を造り夕日の沈むまで空き缶に当たるまで夢中になる。

三月二十六日 水 曇、雨

今日一日小鳥のことでいっぱいであった。石弓でスズメは落とせず、今度は打ち合いがはじまる。赤くはれ上がるがスリル満点というところ。びゅうびゅうとうなりながら石の球がみだれとぶ。墓場の間を逃げる墓に石があったりはねかえつて落ちる。負けたやつは手をあげて降参。まるでなんだかみたいである。今日から鶏が卵を産みはじめたようだ。

三月二十七日 木 晴、曇

鳥かごも去年兄が作ったのに変えて新しい大きなものに取りかえた、小生はもちろん小鳥までもうれしそうだ。小鳥たちのために部屋もだいぶ乱雑になつている。かたづけもしないで朝から花壇の草取りにかかる。しかし長つづきはせず、塩町の衆と石弓の打ち合い。午後も続いている。

その家のガラスを割り一応収まったが、今度は町内の者だけでやり、小生も頭、その他に当たり意識不明になりそうだった。

雨降つて、中学校で日の暮れるまで卓球にふける。

三月二十八日 金 曇、晴

朝から天候はパツとせず、朝の陽光がさしてきたなど思えばくらい雨雲におおわれる。こんなのが昼までも続く。この頃もつばら山がらのせわ。話でいっぱい。日記も三日もたまることがある。朝起きがヤマガラのために早く起きるようになったことが良いことだろう。今日の夜は本間さん宅が留守で泊まりに行く。小生一人ではなかったのだが、つまらないことを話してお菓子を食べる。せまいしかもよその家の部屋、寝ることの好きな小生にはちよつときゆうくつであった。

三月二十九日 土 晴

一時間、一時間時計の音に目をさましながらねた。本間さん宅で明るくなつた五時にはもう目をさます。今日も半日ヤマガラの子供の籠のそばについていた。ただなんとなく、母と兄の口の内乱はくりかえされている。兄も少し強情なようだ。裏には近所の町内の子供たちが毎日のように集まってきて遊んでほさわいでいる。裏はそのために散らかるが、夕方にはきちんと整理されてたき火が燃やされる。

三月三十日 日 晴

小生は学年末などにクラスの級友にサインなどをたのまれるといつもきまつて「一日一善」と書く。書くたびにと思うのだが、小生は書くことは書いて自分はそれを実行していないことだ。それではなにもならないといつも心に思っている。せめて今日からでも、実行しようとおもっているのだが、思っただけでなく心にかたくちかつたのである。

今年初めて野球をした。まだ肩がなれていないので少し変であるが好きなものであるからいつやつても面白い。

三月三十一日 月 晴

三月も今日で終り。明日からは四月という希望にみちた月になる。それにしても早く三年生の組が決まつてもらいたいものである。毎日楽しみにしているこの休みはこれといった宿題もなくただ遊びふけただけでのんびりと一〇日間を過ごした。四月は五日の日から学校で、あと四日間のしんぼう

である。なんとなく新学期が待ち遠しい。

今日「中学時代」を買っていいよ高校入試への気持ちがおこみあげてくる。

四月一日 火 雨

四月馬鹿

起きたときはヤマガラもまだ起きていないうす暗い時であった。なにゆえそんなに早く起きたかと理由はなない。ただ早く寝たせいだろう。

「中学時代」枕元よりはなせない。今日は一日机に向かって本を読む。付録の「英文法」も大変役に立ちそうだ。夜、兄妹とトランプをして遊ぶ。

今日も早く寝てやるうと六時半には床に入ったが、本を読みたいばかりに九時までも電灯の下で本を読む。

四月という月は様々な行事や記念日が多く今日は五つ六つあると思う。

四月二日 水 曇、雨

今日は雪を交えた雨降り。風が吹いて春の芽が伸びているのがちじんだようなさむさであった。最近こたつを取り外したのが残念に思う。

今もう学校の始まるのが楽しみで仕方がない。三年のクラスよ、どんな人たちだろう。と思うと胸がわくわくドキドキしてさまさまな考えが浮かぶ。長兄も青森県の主張所転勤と決まり忙しそうである。のんびりしているのは小生ぐらいだろう。今日もまた行革、記念日が多く並んでいる。

四月三日 木 晴

今朝起きると地面に雪が降り残っていた。四月だというのに雪とはしゃくにさわるくらいである。しかしだんだん陽光がさし、雪も午後からは消えだんだん暖かくなってくる。近所の女の子たちは遊んでいるが山崎君とは縁が切れたようでこの頃さっぱり顔を見せない。あんなに友達であったのにいまではあかのたにんのようになってしまう。

今日はいやにたいくつである。それにガラスペンの良く書けないこと。

四月四日 金 晴

公民館に図書があることはわかっていたが、まだ一度も借りたことはない。それで今日は大平君とたいくつまぎれにこのこやってくるまでにはよかったが、そのあと小生は事務室に入れない。大平君は平気である。やっ

と借りて、帰りに恩師大滝先生に会い今の小生に責任が負いかぶさっていることを先生から聞き身の引き締まった次第。是非とも期待にそいたいものである。

夜読んだ「三等重役」は大人の本であるが、たいへん面白かった、ユーモア小説である。なお作者は源治鶏太。

四月五日 土 晴

校長転任 始業式

今日学校に行けばわかるというのに、たまりかねて昨日の夕方友達と学級名簿を見に行った。それなのに今日またあらためて見て去年の三年六組の教室そのまま六組となり小生らが学ぶ部屋として使用することになった。四三名の人が楽々とは入れて去年の教室とは打って変わって落ち着くことが出来る、

担任の先生も森井先生とあってまた興味をそそがれる。

家庭では学習その他の計画目標などを実行しようと思っているが、どうも思うようにできないようである。高校の新生も最初の日とあってみなひとりひとりがひきしまっている。

校長先生も東蒲原の方へ行くことになり、新しく水品先生が校長先生になる。その他庄司、新藤、先生を送り出し、樋口、萩原先生を迎える。

新しい教室にはさんさんとあたたかいそして明るい光が部屋にいっぱいまぶしいくらいである。窓よりはるかかなたに鷲巣山がまだ真っ白な雪をいだいておおしく我々を祝福するかのようであった。

四月六日 日 晴

気温もぐんぐんと上がりだんだん暖かくなってきた。夕方あたりは日の当たっているところはてんでいられないくらいの暑さだった。

今日は三年生の準備をしようと思つて衣類などの整理をしたが、てんで手につかない。隣の勇君が（高校二年生）が空気銃を持っていたので、もっぱら見物をした。また塩町の木ノ瀬君の家ではヒヨコがかえって一段と春の気配が感じられる。

四月七日 月 晴、雨

昨日と同様むしむしして暑苦しい。懐かしい三面川が身に浮かぶ。今日は

中学校の入学式、高校の始業式とあつて新制服制帽の生徒があちこちに見受けられる。

市場もなかなかにぎやかでお祭りを思い出させる。じつとしていても汗ばムくらいである。大平君と一緒に問題の本を読んだりくだらないことを墓場や、木陰などでひそひそと語り合う。

昼頃十二時のサイレンと同時に火事のサイレンが鳴り、山辺里だときいてほっとしたものの四件も焼けたとの話。

四月八日 火 雨

対面式

いよいよ長兄ともお別れである。一緒に寝ていたこの部屋も兄の道具をかづけた。後はがらんとしたようだが今日からいよいよ勉強がはじまると思つたが、一年生との対面式があつて、お祝いの言葉やレクリエーションなどもようしされた。クラスに転入生が入り小生の脇にすわる。非常に背の高い人で先生より高い。昼までで終わり帰つてくと、母と妹たちは兄を送りに行く準備をしていた。駅ではにぎやかであつたようである。小生も後で行けばよかつたなと思つている。青森まではあんがい長い時間がかかるだろう。

四月九日 水 曇

もう兄も青森の古間木についたころだろう。近頃は小鳥の天国、さえづり争いである。そのため朝はゆつくり寝ていられない。雨戸のすぐそばまできて鳴いている小鳥がいる。

新学期の用意で学校、学級は忙しく、小生はクラスの委員長に選ばれた。何しろこんなおもい役は初めてなのでよほどしつかりしなくてはと思つた。選択の編成も決まり五〇人近くの大世帯となる。理科の水品先生は禿げ頭とは似合わぬ良い先生のように思われる。

耳のわきあたりが痛く風邪を引いたようだ。一風呂あびる。

四月十日 木 曇

航空機墜落

三年生の各科目につく先生が決まった。社会、歴史は熊田先生、とてもやさしくおだやかな先生で話しぶりがよくわかる。数学、大滝先生で去年の担任でおなじみのユーモアを振りまく。英語、国語は担任の森井先生、気に食わぬことがあるとすぐおこるが気立てはやさしいようである。非常におしやれで一部の人には好かないものも多い。その他音楽は男女一緒に大島先生。

体育、安澤先生など決まった。
ここ二、三日の新聞紙上ににぎわしているのは飛行機のついでに事件である。

四月十一日 金 雨

羽黒神社春祭り

父兄会があるというので午前かぎりであった。うちの母も出席して家はがらんとして誰もいない。次兄の富男もちよとしたところに勤めることになり昨日から出ている。末の妹と留守番。母が帰ってきて話すところによると修学旅行は会津若松方面だそう。なんだかまじい様な気がする。
今日は春の羽黒様というので夕方からにぎやかである。近所のお父さんと行つてみた。人ばかり混んでいて、さっぱり意義深いものとは思えない。

四月十二日 土 曇、雨

曇だというのに朝から夏を思わせるむし暑さ。新学期のクラブ活動には小生の得意の図画、図画部に入った。籠球、野球部にも入りたかつたが、図画部になつた。熊田先生、山口先生の両先生である。

春の話題は開校記念日のマラソン大会と修学旅行である。その修学旅行が会津若松方面と決まり担任の先生から話があつた。宿代、汽車賃と合わせて六百から七百円とは安いではないか、今から待ちどうしい。
今日から妹たちと同じ部屋で勉強することにした。

四月十三日 日 雨

朝、母に言いつけられていやいやながら二階の部屋をはく、はくだけでもいつもなまけている小生にとつては、とても大仕事である。今日の大事件は鳥かごの水を入れてやろうと思つて籠を上げるとパツと逃げて、外へ二、三メートルとんだ。あつという間の出来事であつた。それからかくれてみていたが、鳥かごの上でエサを食べている。今日は空腹だったのか、しかし雨の中しばらくするとずつと向うのほうへ逃げて行つた。とてもくやくしてしようがなかつたが、あきらめて朝食を食べる。

三時半過ぎに妹が鳥小屋のわきにヤマガラが来たというので、そつとから籠を手近づいたが、雨の中ちよいと逃げ回り、小生がエサをまいてやつたら、ついエサにつられてとうとう捕まえられた。

四月十四日 月 曇

雨、曇とちかごろは良い天候がない。学校も学級もだいたいぶなれてきたようである。しかし委員長となるとやっぱり責任があつてなかなか忙しい。しかし数学はどうも苦手である。今日も大滝先生にこのクラスは勉強する態度がなっていないとしかられた。

妹たち二人は小生の部屋に来て一週間になるかな。今日は二人とも仲良く一緒に寝ている。これからも続けていかななくては……。

四月十五日 火 風曇

昨晩は非常に風があつたらしい。裏の門はたおれている。小生が起きた時には妹たちはまだ寝ていた。久しぶりにラジオ体操は気持ちの良いものである。国語の時間にちよつとしたことでしたから。数学はいつも宿題がある。明日は身体検査があるので、母の反対を押し切って風呂を立てる。こんどからは兄がいないので五人で入るのだから十円出して銭等へ行った方が良いのかもしれない。昼の勉強が夜にもちこされ目をこすりながら勉強しなければならぬ。

四月十六日 水 雨、晴

身体検査の日。朝から風交じりの雨が降っている。検査は少し寒くみんなかたかたになり身長、体重、座高、胸囲等はいつもの通り。午後からの授業は一時間、もう一時間は町内別生徒会が行われ小生が団長に選ばれた。数学その他の宿題でずつと夜なかなまでやり、職業の手紙の文句は我ながらよく出来た。と……感心している。

四月十七日 木 曇

果たして何日続くやらとこの間にこの日記に書いた部屋の共同使用もわずかに一週間足らずで、けんかわかれしてしまった。事のおこりはラジオの移動であるが、何せ仲の悪い妹とは初めから気が合わなかった。小生も歯がゆくなくて、机を使わず部屋にも引っ込んでかくれるようにしている。それにしても母の妹えのかせいもあんまりひどすぎる。

四月十八日 金 晴

またそろそろ金のかかる時期が来たらしい。教科書の方もまだ決まらず、その金、学級費、学用品、こづかいと大分金がかかる。二百円もあった小生のさいふが今日でかんらく。

映画「風雪二十年」を見たがあまりよく意味が分からなかった。

四月十九日 土 晴

新校長就任

やつと新校長が来た。ちよつと見たような人だ。始めだから何も言えないが、ちよつとこえた人で、もそもそしている人のような気がする。長沼先生もだいたい良かったが、クラブ活動の美術部は図画で淡水画二枚書いて後は遊ぶ。午後裏の畑をたがやしたのは良かったが、何も植えないでただ花を植えるのだけ気を入れてる。小生も五種類ほどのものを植えたがはたしてどんな芽が出るか。日記もだいたいあきて四日もたまつたのを書く。

四月二十日 日 雨、曇

又雨が降りだした。せつかく桜の花も咲きだしたというのに、花見にゆこうとしていた人はがっかりだろう。

久しぶりに西部劇の映画二本立て「セントルイス、高原児」を見た。料金も安く二〇円だったので家の人もゆるしてくれた。

やっぱり映画はいつ見ても面白い。やはり安いと見に来る人もいくらが多い。

四月二十一日 月 晴

お城山に登る

だいぶ学校、学級ともにまた学習態度にもなれてきて、落ち着いてきた。「高校修学アチーブメントテスト」がおくられて、ほつと安心と同時に勉強しなくてはという意気がちよつぴりわいてきた。

しかし放課後、政也君、転校生のノッポの哲夫君と一緒にお城山にのぼる、山では桜が五分咲きくらいで、二、三十人くらいの人が登っていた。

いろいろな遊びで夕方まですごす。夜は早めにアチーブの本を見る。

四月二十二日 火 晴

ここぞうつと新潟の新聞紙上にぎやかに書かれていたラッキーパレー

下の県下巡回の番が村上にやってきた。三時半の学校が放課後になった時、補導委員の会議も中止になり、いく台も並んだ自動車は校庭に集まっている。三つの歌やいろいろなクイズのあった約一時間のあと散会になる。

新学期高校入試準備についての生活設計を書くつもりだったが、面倒なのと、関心のないため書かないでしまう。もう五月になるといいうのに・・・。

四月二十三日 水 晴

内診検査

数学の連日の宿題になやまされて今日もグラフ表の完成にいそがしい。

本のこと哲夫君に貸したりでなかなか大変である。夜は長くまで帳面の整理でもしようと思つて頭を使えば使うほどつかれてつい寝てしまう。春休みの頃は長く起きていられたがこの頃ときたら八時半すぎると目がぼそぼそしてくる。しかし朝早く起きるのだからそれにこしたことはない。

それにもうすぐ、講和条約発効の日が近づいているのは国民の一人としてうれしく思っている。

四月二十四日 木 晴

補導委員会

小生が補導委員として選ばれて以来第一回の委員会が開かれる。新しい委員は一四人であとは古い経験者。議題は「一学期間の教育目標の計画」である。始めてこんな会に出席したのだから上がってしまつて何も発言できなかったことは言うまでもない。

衣部屋でラジオを聞きながら久しぶりで母と一緒に寝る。夜なかにふとんを探したのにはおどろいた。

四月二十五日 金 晴

目の検査

二年の時の社会の勉強とちがつて、今はとても興味深く学習できる。先生の熊田先生はこの学校の三番目にえらい先生であり、言葉つきもおだやかであり、いつも母に注意されている言葉の手ほんになると思っている。内容の方も時々、時事問題の方にまわされると本科の歴史、民主主義の話の方は忘れてきている。本当に面白く学習できる。

今日も数学の宿題は山ほどある。

四月二十六日 土 曇、雨

いよいよ講和条約も結び独立のほうも明後日となる。

生徒手帳が配達され、これの意義と使い方の説明があったのち小生はわかるはんに書き付けた本当に小生がいつも自分の手帳に書いているようなことをかくらんが多くある。その点長所だが欠点としてあまり大きくいつも身に着けていれといわれてもちよつと無理なような感じがする。

学級での討論会あつた後、二回目の補導委員会が午後よりいろいろ討論した。今日は思い切り発言できた。

四月二十七日 日 晴

日曜日ゆっくりした気持ちで起きる。朝からラジオがびいびい言っている。今日も講和関係の話でいっぱいである。

宿題もあつたが、する気になれずぐつとねている。九時半に起きて朝飯。午後から久しぶりにのど自慢、野球放送など聞いた。そういえば六大学の春のリーグ戦今日で第三週、今度もやっぱり慶応の優勝が色こいようである。一時間半も昼寝してまたもや「私は誰でしょう」のラジオに耳をかたむける。

四月二十八日 月 晴

講和条約発効

ああついに解放された日本、独立日本、今日の夜十時半に講和発効。天気まで喜びに輝いてすつきりとした青空をたたえている。あちこちに日の丸の旗がひるがえっている。学校でも今日は特別に校庭に並んで校長の喜びの挨拶のあつた後、記念としてお城山に登山する。もちろん全校生徒である。たとえ鼻緒が切れての下山であっても、おもしろかった。

ああついに独立 喜びにたえない おれ一人ではないだろう
日本国民全部がうれしいだろう。

四月二十九日 火 雨、曇

天皇誕生日

どうしてまあ二日続けてめでたい日が続いている。朝からしとしと雨が降っているのが玉にキズ。妹たちは朝早くからはしやぎまわっている。なんだろうかと思つていたら、今日は小町の小中学生とおかあさん方が一緒に瀬波温泉に遊びに行くことになっていたので。この雨降りにも思つていたのだが、小町の中学生の団長をしている小生も参加しないわけにはいかない。

雨の中ぞろぞろと歩き出した。母子寮についてからはゆっくりと半日を過ごした。

四月三〇日 水 晴

去年から計画されていた生徒手帳の全生徒へのはいふされた。とてもよくできている。ただ大きくて簡単にポケットに入りにくい。今日はやっと母から金を貰って先月号の「中学時代」のダイキンを払う。

五月一日 木 晴

ついに五月に入った。本当に早いものである。四月中にはあれもこれもと計画は非常によかったのだが、いざ実行となると小生独特の面倒がりやぐせがはつきして、何一つとして実行したものはなくただ空想をして一か月を過ぎた。今月こそはと思っているのだが。

今日は学校でも、家庭でもまた国家でもいろいろな行事がずらりとならんでいる。もうがつこうにもなれてきているので、うんと勉強ができるはずだ。

五月二日 金 晴

いよいよ修学旅行のシーズンになる。あちこちと店にはいろいろな旅行用の品物が売られて人目をひいている。明日からは三日続けて休みになるが、あれこれと遊び半分のことがうかぶ。

ちよきんのあまり三〇〇円、持っているとしても使いたくなくなって困っていた万年筆のペンを買ってきた七〇円である。早くも使ってしまった。

五月三日 土 晴

憲法記念日

五月第一日目の行事で今日は休み。明日は日曜、五日は子供の日と三日間連続休みである。今日はその一日目あちこちですすはきの畳をたたくおとがきこえる。金を持っているとつかいたくなる。

映画見に朝っぱらから松竹へ行く。たいへんこつけない映画「青春三銃士」で、最後まで笑っていた。それに小鶴選手の映画「憧れのホームラン王」とであった。

午後から前から計画していた鶏小屋にしいてやる砂を取りに瀬波まで行ってきた。思ったよりも重くて帰ってきたときにはべったりと汗が出ていた。

四時ころからまた映画「怪傑ダルト」を見に今度は東宝へとでかけた。

五月四日 日 晴れ、曇

郡美術展、郡野球大会

きょうあすとだんだんのびて、ついにすす掃きの大掃除は出来なかった。富男があまりわがままなせいだろうか。

郡美術展がひらかれた。本当にこれが書いたものだろうかと思うくらいのことさくばかりで、一時間た見とれてた。

校庭グラウンドでは郡の野球大会が始まった。夜兄への手紙の下書きをする。

五月五日 月 曇、雨

こどもの日 児童福祉週間

昨日下書きした兄への手紙を清書して出した。それから勉強は何一つとしてしなかった。がほかの本は見た。あまり良くない天気雨まで降っている。また安映画一〇円で見えてきた。東宝映画で「息子の花嫁」で大変悲しいところもあったが、また面白かった。今日もまた帰ってこない母たちの部屋で寝る。

五月六日 火 晴

恒例の開校記念日が近づく。今日は女の先生たちが会議出席のため、いなので放課後からは、本当の三分の一くらいのマラソン仮コースを男女全校生徒が走る。小生もあまり好きではないのだが、母の応援も受けて走る。二番であった。これが本番ならばナク。しかし少しは自信がついたようだ。帰ってきてすぐこそつとまたもや映画を見に行く。ついに三一〇円の金は一八〇円になる。

五月七日 水 晴

いよいよ修学旅行も近くなり今日は先生方のお話があった。「旅行のしおり」、ほかにプリントなどもできてみんな張り切っている。

家に帰って船山君からまたもスズメの子をもらった。子といってもまだはねのけが出てきたばかりで五センチくらいしかない。二匹残ったが夜は箱の中に入れてちゅんちゅん泣いている。この分だとなんだか死にそうだ。エサはだいたい食べたはずなのに・・・。

五月八日 木 曇、晴。

今朝までは雀の子は元気だったが、帰ってきてみると死んでいた。なにが原因だかわからないがこんなことになるのであればもらわなければよかったと後で後悔した。

あすは奇数組が修学旅行に出発する。なんだかうきうきして勉強はてにつかない。二五〇円のベルトを買ったが、父の物と取りかえされた。結局古いベルトが小生の物となる。

五月九日 金 晴

今日は奇数組の一班が旅行に旅たった。教室は一つおきにがらんとしている。小生は帰ってからそろそろと旅行の準備にかかる。二日も使うビニールの袋に、菓子くだものと入れ小さなカバンいっぱいになる。

早めに床につき母たちの部屋に寝る。明日は晴れてくればよいのだが、しかしラジオは曇といっている。

五月十日 土 曇、雨

修学旅行

早く起きたつもりだが、母たちは起きていた。あれこれしてうちに七時半、町内の人たちと一緒に駅に行く。初めて県外にでて、福島県の言葉にはすこしあきれれる。山々の間のトンネルをくぐる。八時間の汽車の旅ののち、野口英世記念館、その他の建物・記念物など見て東山温泉に到着。風呂に何回も入ってたくたになり夕食ののち、ぎっしり詰まった部屋の中でさわいでいるうちに、一人、二人と寝ていく。ザーザーと川の流れが聞こえる。

五月十一日 日 曇

夜中二時ころからおきている者がいたようだ。五時にはみんなが起きて、町へ行くもの、風呂に入るものさまざまである。朝食をとり旅館を出て徒歩で若松市を歩き、鶴ヶ城趾総合グラウンドなどを見る。

鶴ヶ城の中には競輪場などがあり、記念写真などを取り駅へと行く。それからまた汽車に乗り新津、新津へと車内にもぎやかに汽車は走る。

家にだまって帰ってきて母にしかられる。それから旅行の話など一つもせず寝てしまう。

五月十二日 月 晴

昨日の夜宿題の綴り方を書こうと思ったのに明るいうちから寝てしまい今日の昼近くまで寝てしまう。まだ汽車に乗っている気持である。

昼からはちよっとおそろじをやっていたが小生は何一つしない。小鳥屋に行つてエサなどを作るのを見る。

学校へ遊びに行つてひさしぶり運動をした。籠球に卓球に汗びっしょりになる。

五月十三日 火 晴

五月というのに大分さむい。何と寒いのだろう。

まさに暖冬異変。

またこたつにあたるしまつ。

あんな真冬に暖かく。

この五月の春にさむくなったのは。

五月十四日 水 曇

小鳥の歌に飛び起きる。明日は学校の開校記念日とあって、マラソンの練習に余念がない。それに少年野球大会も近づいている。スポーツの行事もだいぶ並んでいる。今日は選択の時間が二時間も続き、きらいな英語をしっかりとしぼられて、体中が熱くなったようだ。先生も我々がわからないのががゆいのか、おこってプンプンである。小生も勉強する時間はあったのだけれど何一つしなかったのが悪かった。

五月十五日 木 晴

創立記念日

今日は創立記念日。先生のお話の後、男子マラソン、女子バレーの大会にうつる。風で寒く、体がぶるぶるふるえている。しかし元気で、一年、二年、三年と校庭をスタート、今年最後なので小生も頑張り一回も休まず、力走。三〇番までには入らなかったが、三九番と自分ながら好成绩。一年の時の九八番、二年の一〇〇何番と比べれば、よほど良い。しかし団体の学級では七番というみじめさ。女子のバレーも一回戦で負けている。

帰つてきて映画を見に行ったころから、寒気がしてきて頭がやめてきた。何にもいたくなかった足も痛みはじめた。そこでぐっすり明るいうちから寝てしまう。

五月十六日 金 晴

昨日のつかれがまだ完全にかいふくしていない。足のモモやひじが痛む。こんなことは小生だけでなく皆がようだ。

今日は森井先生がお休みで一時間英語の時間がつぶれた。今日補導委員会があつていろいろな係りが決められて、仕事などがいいわたされた。

昼母と喧嘩したので、あまり家にいたくなく、学校で籠球やバレーなどして帰る。また恒例の田んぼに行く水が流れてきた。夕方校庭で少年野球大会の練習をした。

五月十七日 土 晴、

担任の森井先生が今日も休み、皆はなんだかさみしそうだ。朝会にマラソン、バレーの賞状、賞品の受け渡しがあつた。小生のクラスは何一つ団体の賞状をもらえなかつた。

大相撲も一週間に成りやほり羽黒山が強くて今まで全勝である。

五月十八日 日 晴

朝早く母に起こされた。今日は残つた店の方と茶の間のすす掃きをしながらはならないのだ。兄と一緒に天井の方のすすを落とす。母も一生懸命だ。妹は朝早くに新潟の方へ修学旅行に行った後だつた。

今日は少年野球の大会があつた。郡の大会でやはり村上が強くて優勝しそうだ。どうしたのかまた足が痛みだした。夕方、相撲・野球のラジオ放送を聞きながら寝た。

五月十九日 月 雨曇

今日の午後には痛んだ足がずきずきと痛む。森井先生は今日は来ていた。三年になって初めての試験が数学によつて行われた。あまりむづかしい問題ではなく簡単にできた。理科(生物)の試験がある。

今日やっと待ってたにわとりが巢について卵をかえした。まだ三匹しか顔を出さないが、そのうちにもっと顔を出してくるだろう。放課後、学校で連れて行った映画「アリババと四〇人の盗賊」をみた。

五月二十日 火 雨

朝起きてみるとヒヨコはみんな出そろつたようだ。ヒヨコのうちはみんなかわいい。家族総出でみんな鳥小屋をはなれない。かわるがわる見に来る父はあさからつきつきり。この子がオスであつたら何にもならない。

理科のテストは勉強不十分なためよくない点のようだ。

雨降りは一歩おもしろくない。これから梅雨に入ればこんな日は毎日である。いやなこつた。しかし気温は上がりはだかで昼食を食べる。

公民館から借りた本を読む。

五月二十一日 水 雨、曇

体重測定

案じられていた雨も上がり、ヒヨコには何にもエサがないらしい。学級での新入生である哲夫が昨日から小生に何にも口をきかないが、どうしたのか原因がわからない。くやしいから小生もだまつて口をきかない。しかしつらいものである。

公民館から借りていた名著「日本書記」を読んでいるが相当むづかし本である。夕方ちよつと友人とチャッチボールなどして遊ぶ。

また試験がある。もう高等学校では中間試験とやらに入っているらしい。

五月二十二日 木 晴

あんなによく鳴きだいでなれてきたヤマガラが何が原因だか知らないが、足にきづができて血が出てさつぱり元気がない。この分では死にそうである。かわいそうだがどうしようもない。それに代わつてヒヨコが元気よく飛びまわっている。いつ見てもあきない。放課後町内の友達と学校へ遊びに行く。バレーの練習試合も行っている。

また悪い風邪がはやりだし、各クラス何人も人が休んでいる。

五月二十三日 金 晴

なの花の盛りも過ぎ、実がなりだし始めた。今日近所の友達と小学生も交えて竹ぼうもつて切りあいの遊びをはじめた。裏の大平君の墓場を舞台にちゃんちゃんバラバラと何時間もつづく。

汗びつしよりになり帰ってきて、母に足を洗えと注意されながらも、ラジオに耳をかたむけ大相撲に熱中する。

五月二十四日 土 雨

村上町青年野球大会

雨の中で今日から始まった青年会の町内野球大会が行われているが、青年会といっても学生が半数をしめてチームをかためている。今日の野球も同じだ。小町は人が集まらなかったのか今回は出なかった。

公民館に今日もかよい「本日休診」をかりてくる。「あわれ人妻」は夜中の十一時までかかって読む。

五月二十五日 日 晴

朝はやく二階に下宿している女学生はバレーの試合とかで新発田へ行く。

きのうあんなにおそくて、今朝はおそくまで寝ていようとしたが、なかなか寝られない。天気が良いのでうらに多く出ている。小生は様々な苗をうえたりした。今日の予定に入っている国語のよていはさぼってしまった。おなじみの小生の映画フアンの友達と東宝で西部劇「ダラス・オクラホマキッド」を見てくる。

大相撲の夏場所も終わり優勝力士は東富士と決定。

五月二十六日 月 晴

合同慰霊祭

大相撲も終わり何にも楽しみはなくなった。

今日、村上町の合同慰霊祭が行われた。明日は国語の試験だというのに勉強など手につかない。

近所の友達、斎藤寛、板垣敏夫、長嶋勝、船山吉雄、丸山勝三郎、山崎英志、中沢敏夫などとあそびまわる。

こんな右上がりの文字を書き並べるのも面白くなってきた。

五月二十七日 火

国語の試験があったが勉強不十分のため、八五点という不成績。

放課後先生方は小学校の先生方と野球の試合が行われている。今日は補導当番であかしろの腕章をつけている。

初めて柔道を講堂でした、ちよっとおっかなかったがだんだん面白くなり遊び半分ですわいだ。

五月二十八日 水

「人間座」という劇団の芝居があるというので小学校の講堂までみにいった。「いつまでも続く話」と「山椒大夫」であった。なかなか簡単な舞台のうちであったが、あまり上手で感激させられた。夕方おそくなり文句も出た。

五月二十九日 木 晴

昨日見た演劇の感想文を先生からいわれ一晩かかって仕上げる。一か月ぶりに風呂に入る。

五月三十日 金 曇、雨

緑のそよ風、五月も終わりに近づいた。日記を書き始めてからはや五ヶ月大分書いたものである。来週は中間試験の最終日「社会」、「歴史」、「英語」などがならんでいる。

学校の中間清掃があり足にガラスが入って負傷。
倉松君から面白い本かりて熟読。

五月三十一日 土 晴

久しぶりに二年生の時の級友に会う。やっぱりなつかしい。女子も交えて、去年の学級費の残り写真をつす。とても笑わせたのでよくうつつとは思われない。

昨日から各学級にバレーボール、バスケットボールが配達されそれぞれそのスポーツに熱中して、どんなシャツでもすぐ汗に汚れてしまうという気温、体温。
明日からは六月。もう初泳ぎした人はいるでしょうか。

六月一日 日 曇

六月初めの日は日曜。宿題はそんなになのだが、やっぱり本を見なくてはという気になる。試験のあるせいだろう。しかし気持ちだけでいっこうにむかない。校庭の横にある用水路に例年どおり水が流れ始め良い遊び場となるだろう。朝の一時ころから東宝映画館のレコード音楽や、映画の会話が大きく聞こえどうも勉強のさまたげになる。それにその音楽などにつられちよいちよいその方向へ足がむく。まことにいやなことだ。

六月二日 月 曇

曇っていた空が昼頃から本曇りになり、雨が降ってきた。梅雨を思わせるような雨で長くつづいた。

第三回の補導委員会が行われて六月の行事目標などが決められた。校内音楽会も予定されており又スポーツ行事もいろいろ多くなってきた。

六月三日 火 雨、曇

昨日よおそくまでかかって作ったかしわ餅をお青森にいる兄のほうへ送った。もう行ってから二か月くらいになるが兄はどうしているだろう。

雨が降っていてかさやは大はやり。

試験の勉強にと本を出して英語の単語をしらべたが、なかなか覚えきらない。

六月四日 水 曇

英語試験

日がかんかんと夏を思わせるかと思えば、日が陰り風が出てくるといったはなはだしい気候である。この頃何が原因か日記をつけるの忘れがちになり二日前のもの今書いたところ。英語の試験があり、うっかり間違いでせいぜい八〇点くらいかな？社会、歴史と試験がつづいているが、はたして……。いよいよ節句が近づいてきたが、近所にはいつこうにこいのぼりの生き生きとしたこは見当たらない。

六月五日 木

社会試験

マタこんな小生の凶案、こんな字を書いて「近藤衛」、たいくつまぎれに作って書いた次第。

熊田先生の初めての試験、変わったただし方でこっちの方がめんくらう。

六月六日 金 曇、雨

歴史試験

今秋の最後の試験で一生懸命やったつもりだが、なれない変な試験の出し方でやっぱり勉強の不十分なせいかな今までの内におそらく一番悪い点じゃないかと思う。朝早く斎藤君たちとミミズつかまえる。

映画を松竹館へ見に行く。本で読んだことのある「本日休診」である。

六月七日 土 曇

校内音楽コンクール

今日 六月校内行事の一つ、音楽コンクール大会が開かれた。小生らのクラスもうんともめてやっと決まった出場者も棄権してややさみしかった。それでも先生方もとび入りでうんとにぎやかにしようしされた。

今日は試験勉強も休んでのんびり休もうと思った。近所の友達と昨日とつたミミズなどの話にふける。

七湊まで言づけに倉松君といっしょに行った。

六月八日 日 曇

今日の予定は何もなく、三日も続いた試験が終わったせいかわ遊びがちになって近所の小さい子供たちと一日中さわぐ。イノ実鉄砲がやはり、学校、校外といわずどこでも打ち鳴らしている。

六月九日 月 曇

今日の夕方、営林署の人たちの祝い事があるというので家に人々が集まり、芸者まできてにぎやかだった。おかげさまで明日に数学の試験勉強はもちろんのこと、学校から頼まれた「水害予防」のポスターも書けず、ただ上の部屋のさわぐ音に頭をなやまされるばかり。一〇時ころにはおさまり、小生の部屋にもよいつぶれた人が寝ていた。

六月十日 火 雨

時の記念日

凶画、学校からたのまれたもののポスター、夕方五時半までおそくなって仕上げた。なんでもうまく書けず。

六月十一日 水 曇、雨

昨日のポスターで鉛筆三本もらう。午後の夕方から降り出した雨が大雨になり屋根がアアあくような音を立ててどうどうと滝のように流れおちた。おかげさまで小生の家は洗面器やバケツ、たらい、なべなどが大はんじょう。家の中で雨だれの音楽が聞かれた。

今日も無言のまま一日終わる。

いよいよ雨が降りつづき本格的な梅雨を思わせるにもかかわらず、市場の人の往来は激しい。

二階に下宿している二人の女学生とどうやら話のできる付き合いができ

るようになってきた。今日初めてチャッチボールをする。女のくせになぜか達者なものだ。

六月十三日 金 晴

レントゲン撮影

今日は梅雨晴れとでもいうのかからりと晴れあがつた日本晴れ。気温もぐんぐん上がり、日中は今年最高二十三度までもあがる。保健所までレントゲン撮影に行く。出来上がってからの一年の保健所の建物は非常にきれいである。もう初泳ぎ者もだいぶ出ている。「人間豹」を読む。

六月十四日 土 晴

もう一ヶ月もすれば村上大祭がくる。

土曜日の授業通り朝会の次にクラブ活動がはじまる。小生も美術部にとどまりついに部長に選ばれる。どのクラブもみな活発で、小生のクラブも負けではだめとがんばる。

先生からの重大一言。『先生方の間で決めたこと、今日の終わりごろ一斉テストをする。一学期に習ったところ。』との一言。まことにおどろく、よしひとふんばり。

六月十五日 日 晴

昨日の夜立てた学力テストまでの計画にもとづいて実行にとりかかる。学習する時間が非常に多いのでどれだけできるかが問題だ。

何通も兄よりの手紙が来る。なんだか向うでも金が足りないらしい。良い計画ではあるが午後からになるとやっばり予想どうりあきけがしてくる。それに先生の言った通り得意な科目にこだわりすぎる感がある。

六月十六日 月 雨、曇

計画実行の第二日目をむかえいきいきしている。小生がこんなに気を張っているのに学級では。何食わぬ顔。

「人間豹」のつぎに「森の石松」を学習あいまに読むことにしたが、小生の大好きな森の石松ときては読み時間が長くなりがちである。

朝もだいぶ早く起きたが、夜もおそくまで起きています。国語、英語ともに参考書によって十分になる。今日あたりはだいぶお祭りの笛の音も聞こえてくる。

六月十七日 火 晴

だんだん気温も上がり、一斉テスト前に歴史の試験がある。学校で映画を見せるが少々いそがしい。特に列記ごとなし。

六月十八日 水 晴

学力考査の日程も決まりいよいよ本格的な勉強に入らなくては……学校図書も利用したがあまり良い参考書は見つからない。昼からと、夜を合わせて、もっパラの宿題で十分日を終わる。もつとはやく宿題をすませなくては。今日もまた笛の音が聞こえる。

六月十九日 木 曇

曇だというのに蒸し暑い。テストも近づく。参考書と買って安本を買う。買いきれないで注文したらいらぬ金が三十円もかかる。

夜おそくまで続けたが、今日の方法は要点をカードにうつした。明日もこの手でしょう。

小学校で「共産党」の講演があった。ポツリポツリと雨が降ってきた。かも出てきた。ブーンとおとをたてて、電燈のまわりに名も知らぬ虫が多いたわむれている。

笛の音が遠く聞こえる。さて寝るとしよう。

六月二十日 金 曇

さて三年間通じて今頃ほど一番クラブ活動の熱心なのはないと思う。

p・T・A(地区)で小生は生徒代表に選ばれなんのこのといいつけられた。おかげで予習復習の学習ができず四時から八時まで何一つしない。その後は英語と国語の宿題をして終り。明日の朝早く起きてするつもりだ。

六月二十一日 土 晴

中部郷少年野球大会

いつもの通り朝会が開かれ、読書調査の研究の発表の後、中部郷野球、排球の選手のかんげい会が行われ、小生応援団長として壇上に上がり旗を振って選手を上げました。「p・T・A」の会報には小生の「人間座」の感想文

がのっていた。

昼から友達におごられて映画を見に行く。「ほら男・愛と血の大地」の本立て。二〇円で非常に安かった。

七時半より小町地区 p・T・A が開かれ小生は生徒代表として選ばれちよつぱり発言した。

六月二十二日 日 晴

「衛つ、榮祐からの手紙！」という父の声に起こされる。もう九時にはなつていた。兄からの手紙はタイしたことでなくしつかり勉強せよとの意見。富男から「お前二階にこい！」といわれて、前から希望していたことが、今かなえられて、さつそく二階へ行く。ここならなんとなく思いきり勉強できそう。

六月二十三日 月 晴

第四回補導委員会

初めて二階の四畳半にねたわけだ。やはり静でよく寝られたようだ。いよいよ明日から試験に入るわけだが何としてもよい点を取りたい。

今日補導委員会が開かれ、努力目標・予算などについて討論した。家に帰って、どうもうまく勉強に力が入らない。すぐ眠くなってしまう。

六月二十四日 火 雨

学力考查

第一日目の一科目と気がゆるんだのか、かんたんなものを、また最近習ったものをもう忘れたのか、せいぜい良くて八〇点くらいかな。

今日補導当番に当たり、放課後ちよつと学校に残る。帰ってきてすぐ本を開いたわけだがはたして明日はどんなものか。

なんにしても今日の点はあまりよくない点であった。委員長としてめんもくない、明日こそは・・・。

六月二十五日 水 晴

試験二日目。またまた良い点は取れなかった。社会は復習が不十分、図画は注意力が足りないためどれも八〇点以上は取れない。夜はいつもよく勉強しようと思つて本を開くのだが、すぐ眠くなるのだが、今日はほとんど勉強できた。しかしどれほど頭に入ったかはききものである、

今一時ころだろうか。しかしまだ続けるつもりである。さつきまでは笛の音や、映画の音などやかましかったが、今は静で夜回りのしやしぎの音だけがカチカチと聞こえる。

六月二十六日 木 くもり

曇つてはいたがもうすつかり夏の気温になる。友達はみんな初泳ぎをしている。小生も泳ぎたいのはやまやまだが、何しろふんどしが無いからどうにもならない。しかたないから友達と映画を見に行った。「若人の誓い」である。

六月二十七日 金 晴

今日の試験は両方とも九十点でだいぶ良かった。

村上の祭りも近づき各商店では大売出しや福引などで客を呼んでいる。パチンコ屋のはんじょうによって、映画館はいつもすいているという話。

この頃つぶれそうになった『東宝』が今では一番はやるということ。今日もチャンチャン、ジキジキと鐘の音が聞こえる。

六月二十八日 土 曇、晴

オリンピック水泳選手出発

試験も終わりに近づいて、あと三科目。しかし英語、音楽、数学と小生のきらいな科目。はつきりしたことはわからないが、八〇点そこそこの平均点くらいである、

雨のためクラブ活動もなく、せつかくの祭りのポスターもだめになった。午後から試験勉強でもしようかなと思つたが、明日の日曜がひかえているせいかつい早めに寝てしまう。

六月二十九日 日 晴

初泳ぎ

明日は待望？の試験だというのに、勉強も一つしないてつい遊びがちになる。英語の単語は調べたが、かんじんの関係代名詞の使い方がわからない。土後の三時、川へ泳ぎにゆく。今年初めてである。勇ましく川のなかへ。風もあつてまだすこし冷たかったがそれでも二、三〇人の人たちがきていた。

六月三十日 月 雨

今日で試験は終わりである。英語は良く調べていったはずだが、調べたところはそんなに出ず、半分は二年生の英語から出た。それで三二点というじめなあわれな恥ずかしい、はがゆい、くやしい点。本当に悪い点であった、これで平均点はグッと低下し、八〇点以上の見込みが七〇点そこそこまで下がった。音楽で七四点取ったがもうどうにもならない。

三時から映画「バクダットの盗賊」を見る。
明日の数学こそはと夜は猛勉強したつもり。

七月一日 火

水泳許可

きょうで試験は終わりである。昨日は英語であんなに悪かったのだから今日こそはとおもつてのぞんだわけだが、かなり変わった問題になやまされて九二点ぐらいであった。今日でやっと試験が終わったわけだ。
水泳はまだできない。今日から七月中ようど日記を書き始めてから半年になる。早いものでもう半年ガンバロウ。新聞も半年分とじられた。

七月二日 水 雨

苦しい中でたのんでいた祭用のはつぴが出来た。八五〇円とられた。しかしとてもうれしい。があまり質の良いものではなさそうだ。
雨が朝から降り続けている。もうすっかりお祭り気分にも一変しはなやかにってきた。

七月三日 木 晴

第五回委員会

本当に試験が終わってのんびりしたのもつかの間、今日の補導委員会で総会の開会の辞を言うことになり、明日までその作文を書いたり、また金曜日には英語の試験がもう一度することになった。そんなことでお祭りどころではない。

昨日の雨で各地には被害がひどく、大分流されたようだ。

今日から上着をぬいで登校。もうセミの声が聞こえた。郡の大会をめざして野球部は今日から練習をはじめた。今日は裏の方の屋根が新しく変わった。

七月四日 金 雨

生徒会総会

いよいよ小生の開会の辞を言う今年度生徒総会が午後から開かれた。あま

り活発ではなく、ただ役員のことばだけで会は終わった。

七月五日 土 晴

いよいよ祭りも目前にせまり町中わきかえっている。先生方の都合で学校も早く終わり、祭り気分いっぱい。ハッピも出来上がり、小生にとつてもまちどうしい。ひるころ「新潟日報」社のサービスクーが来ている。

映画「トンカツ大将」を見に行く。佐野周二、津島恵子などが主演。帰ってくると祭り屋台が出来上がっていた。小町のものは白木のいろけのない屋台である。

七月六日 日 晴

村上大祭

日曜で、きのう組み立てた屋台をひるから引つ張り始める。塩町他の町内一部を引つ張りまわって帰ってくる。すっかり店もそろい祭り気分はOK!

七月七日 月 曇

朝の四時から起きて羽黒様まで屋台を引きおいてくる。それから二時間ばかり寝ていると又すぐひつぱりに出た。夜の店のにぎやかなこと。竹内先生などもだいたい酒がまわっている。肴町へ着いたのが夜中の一二時半頃。それからすぐ家に帰る。開いている本もまだそのまま。

七月八日 火

昨日一二時過ぎに家に帰ってきたので、朝はそんなに苦しくなく起きた。店は一段とにぎやかに茶碗売り屋の口調が一番おもしろい。

家の中には下宿している人の家族までが大勢きてやんやんやさわいでいる。もうこれで三日にもなる。もういいかげんに帰ってもらいたいのに・・・。学校もちよっとばかりありすぐ終わる。ひるから映画を見てきた。「鞍馬天狗」

七月九日 水

一日にしてがらんと街の様子が一変した。ただ金魚や、蒸気パン、植木屋などがまだがんばっている。その中でも何年ぶりの植木屋が一番人を呼んでいる。小学校のとおりを利用した露店がのぼりのいろもあざやかだ。

村上大祭の小町慰労会があり小生も出席した。六、七〇円くらいでサイダーとお菓子をもらった。

七月十日 木

いよいよ高校入試の気運がみんなの間に高まってきた。先生も同じくその方に精を出しているようである。もう七月で半分も過ぎそろそろ前方を明らかにしなくては…。

アチーブメントテストの本が来て四〇円の二回分八〇円もとられた。いろいろな本を買うまでは良いのだが、それをよく読まない。それが小生の欠点の一つである。もちろんさまざまなお用事があったのだが。

映画「母をたう歌」を見る

七月十一日 金 曇

またさまざまな集金がはじまった。学級費、自治会費それに夏休み帳代アチーブ代、と百円はかかる。全く金使いはたやすくできているものと思う。

職員会議で午前かぎり、昼から映画を見にゆく。「北西騎馬警察隊」

七月十二日 土

今日の朝会に全校水泳のことについて話があった。瀬波海岸へ水泳指導に行くのだそうである。泳げない人のためには特別指導があり、全員参加であるが我々にとつてはあまり面白くもなさそうだ。待っている時間も相当あるし…。午後から久しぶり好天気になさそわわ川へ行く。今年になって二回目である。小町からは小生一人であるが、健一郎に岩沢が同伴であった。

七月十三日 日 曇、晴

朝は安眠で気持ちよく起きられた。ちよつとした宿題に予習もやり午前中はすぐ終わった。ひるからは昨日よりも気温が低かったが、川へ友達と行く。昨夜来の雨で茶色に濁っていた。それでも平気に思う存分泳いだ。それにしても明日の全校水泳指導へは行きたくない。なんだかきゆうくつなような気がして…。帰ってからすぐ寝て本当に一日分夕方前に寝てしまったよう。

七月十四日 月 雨

今年一年の学校行事になる全校水泳の計画が雨のため中止され道具を取りにいったん家に帰った次第。雨は降り続いてなかなか止みそうもない。

明日は晴れてみんなで瀬波へ行けるのだろうか。先生方までも心配している。職業科で建物の設計を勉強している。将来小生の歩もうと思つてい

る仕事だけに面白くてしかたない。今も数学の連立方程式をそつちのけにして製図を書いた。

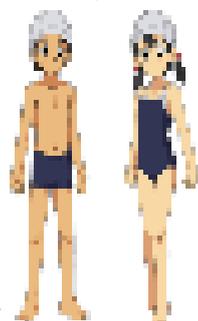
七月十五日 火 雨

今日も朝からの雨で水泳もお流れ、まさに「校舎の朝雨 軽塵をうるおす」といったところ。いよいよ梅雨も終わるといふのに、雨のラストスパートかな？。いよいよ学期末に入り試験があると思つたらな

い様子である。忙しいせいか今日は午前かぎり。放課後前田君にお

ごられ手映画を見にゆく。「酔いどれ歌手・新撰組」文

映館へいく。どちらもたいしておもしろくもなかった。それよりもアメリカ映画の喜劇のほうがどれほどおもしろいかもしれない。



七月十六日 水 晴

全校海水浴

長い間といつても一週間前から楽しみにしていたが、二、三日前は雨でのびていたが今日ようやく出発することが出来た。

一年、二年、三年と各々違った道をとつて瀬波の海岸より五〇〇メートルくらい離れた海岸で各学年ごとに一〇分くらいづつ男女順々に泳いだ。あまり天気は良くなかったが、面白かった。

七月十七日 木 曇、雨

昨日に続いて今日も水泳があると思つたが、なになに夜中から大雨まさにこの雨で水害またひどく北陸地方がやられた。新潟県でも岩船郡は特にひどかったようだ。ラジオや新聞などが報道している。特に土木関係がひどく橋などが大分こわれたようだ。

七月十八日 金 晴

二回目の全校水泳指導の海水浴が、曇の天候であったがこの間と同じコースでおこなわれた。

ついたころにはねずみ色の雲もすっかりなくなりジリジリとはげしい日光が照ってきた。旗やポールで区切られたはんい内で我々は思う存分泳いだ。そのまわりには、先生方がボートをこいでいた。

こんな様だから何一つ事故がなく無事水泳が終わった。

おかげで三時ころ家に着いた頃は顔や体が一段というがついて黒く日をやけた。

七月十九日 土 晴

オリンピック開幕

若人のあこがれの第十五回のオリンピック大会が、フィンランドのヘルシンキで今日日本時間の午後八時から開かれた。小生も八時からラジオにすがりついて一心に耳をかたむけた。まさに感げきの場面を聞いた。

これから十六日間またラジオに取り組むわけである。夜は母は父兄会に行ってきた学力一斉テストの答案が返ってきた。

七月二十日 日 晴

岩船郡野球排球大会

朝から岩船郡の野球、排球大会があるので選手、応援団などで学校や町中ごったがえしていた。小生も村上の応援に行ったが、暑かったのですぐ帰ってきた。聞いた話で村上は関谷に三対一で非常にくやしい負け方をしたといっていた。日はカンカンと通り道路のアスファルトもやわらかくなってきた。あい変らず川へ行って半日、日の暮れるまでさわいだ。この間の大水のせいか流れが強く水量も増えていた。

七月二十一日 月 晴

終業式

この日は一学期最後の日。いつものとおり校長先生のお話、その前に女子のバレーは優勝したのでさまざまな賞品などがおくられた。特に赤い優勝旗が目立つ。

H、Rに、試験、通信簿などがくばられた。あまり良いとも、悪いともいられない成績だ。小町は公民館主催の少年野球大会に出ることになった。

七月二十二日 火 晴

夏休み始まる

夏休み第一日。そのままただのんびり過ごしてしまった。補習授業の第一日は、朝の八時ころきた女の人たちに場所をとられて教室に入れなく、そのまま少年野球の練習をした。

七月二十三日 水 晴

地蔵様祭り

今年の地蔵さまは小生が子供会会長で大将だ。ぼんぼりを書いたり、いろいろなことをして夜の十時ころまでで、五百円くらい上がった。だんごもさまざまなのをいくつももらって、食べた。夏休みの補習授業は今日もおくれしつぱい。オリンピックの体操は全員入賞。

七月二十四日 木 晴

オリンピックもだんだん白熱してきて、日本選手の活躍もめざましく、本日に涙ぐましい。特にレスリング、体操などは全員入賞である。

昨日の地蔵様のお金で少年野球用のバットを買った。二百九十円であった。

七月二十五日 金 晴

今日やつと補習授業に顔を出すことが出来た。後で感じたことだが、ただガヤガヤして何にもこうかが無いようだった。英語は今日から始まり俳優詞の変化などを行った。

あいかわらず毎日のように川へ行っている。今日はいもを焼いてとつてもうまかった。選挙のポスター書きに夕方の一時間を使う。

七月二十六日 土 晴

どこへ行ってもオリンピックの話をしている。朝のうちに安良町のチームと練習試合をやり軽く一勝と。今日はめずらしく三時ころから川へでかけてきた。

四時まで泳いでくる。夜は小町の友達と映画を見にゆく。「凸凹外人部隊・海賊ブラット」

七月二十七日 日 曇、雨

七月三十一日に思い出しながらこの日記を書く。何しろ四日もたまったからには、とうてい書く元気がない。映画は松竹で「無頼漢」ともう一本の本立て。少年野球の組み合わせに入り小町は強敵の飯野チームとぶつかる予定。

安良町

羽黒町

塩町

飯野

小町

小国町

泉町

久保多町

大町

庄内町

片町



八月一日 金 雨、曇
四日間も降りつづいた梅雨のような雨もようやく上がり、昨日から作り始めた小鳥かご、夏休み中の宿題もかねている。思ったよりちよつとした所に注意がいくものだ。しかし前に作った経験をかかして、りっぱな物を作るつもりだ、もう手が痛くなりはじめた。
オリンピックの水泳も陸上も同じくふるわず、古橋は期待外れの八着となり、望みもうすくなってきた。

八月二日 土 晴

明日はいよいよ少年野球。肩の痛くなるほど練習をする。下着のシャツは3枚もダメになる。こんなに練習をして負けてしまえばなんにもならない。

相手は強敵飯野らしい、だから我々選手は勝つ自信はたっぷりあるから大丈夫だと思ふ。青年会員等よりの協力は本当にありがたい。グロウブの借りたのは本当に我々は助かった。

八月三日 日 曇

少年野球、昨夜来の雨で今日は中止となった。今日あればプログラムは全選手の入場式、優勝盾のへんかん、選手宣誓などがある。この二つは小生が受け持つことになっている。今年勝てば二連勝というわけ。

鳥かごづくりの方は無理しないでいどにまだひごづくりの四本目くらい。穴あけは手が痛くなるので作らない。

八月四日 月 曇

少年野球は、打って打って打ちまくりに二連勝の栄冠を勝ちえた。メンバーは

- 一番 サード近藤、二番 ファスト斎藤か板垣、
- 三番 ショート丸山、四番 ピチャー板垣か斎藤、
- 五番 チャップチャー山崎、六番 センター長島、
- 七番 セカンド船山、八番 ライト斎藤弟か樋口、
- 九番 レフト中沢



八月五日 火 晴、雨

昨日選手全部が集まり小生の家で会を開いた。祝儀として七〇〇円をもらう。そのうち五〇〇円は食べたり飲んだりした後のあまりは写真でもうつしそうだ。賞品は便せんと鉛筆三本もらう。

今日の昼前は曇っていたが泳ぎに行った。道はいつ来ても二、三人から三人くらいはいた。

昼から映画、松竹館へ「銀座巴里・腰抜け伊達男」

八月六日 水 晴

鳥かごの方は小生よりも、兄が作っているみたいになった。今日からは小生が作る。何しろ穴あけが大変だ。この間の一〇〇円で映画「自由学校・馬くろ一代」を見に行く。自由学校の方は本で読んだ後なのでよく比較

できた。夕方からしし舞の練習がはじまった。

八月七日 木 曇

今日から待っていた映画の「三等重役」がはじまる小生は先に本で読んだことがあるのでなお楽しみにしていた。もう一本は「虎の尾を踏む男達」ある会社の社長をばさんでんかいするユーモアもの。ついにまちきれなくなつて三時半出発。帰ってきてすぐしし舞の練習である。

八月八日 金 雨

朝から明日の学級招集日を今日と間違えて、友達四人と下らない話をしながら帰ってきた。

鳥かごの方もなんだか仕事の運び方が、まづくなつてきた。

宿題の方は早く切り上げゆつくりと鳥かごを作りたい。

八月九日 土 雨、曇

学級招集日

今日がほんとうの招集日。しかししし舞の幕を洗いに行つたおかげでおはじをかく。それにアチーブ帳面を見られて何も書いてないのでしっばい。早く終わらせてやりたいくらいだ。

八月十日 日 雨

町民水泳大会

どうもこの年の夏はへんな夏で大汗などかく時がない。川やプールなどにもそんなにいかなくて、それだけ涼しいのだ。冬の暖かさと相まって、まさに暖冬異変というところか。

町民水泳大会がプールであった。小生に出れ出れと盛んに進められたが、ことわつた。

夜もだいたい涼しくなり、スイッチョン、スイッチョンといつもの虫が鳴くようになった。

八月十一日 月 雨、曇

全校招集日

小、中、高とも全部招集日らしい。久しぶりに見る級友の顔も、皆顔色が変わっている。しし舞練習もたけなわ、小生の踊り方もだいたいぶ板についてきたらしい。

今日は五十嵐鉄弥、倉松鋼作の両君が遊びに来て夏休み帳などの帳面写しなどをやる。夜、七夕まつり小町屋台ぼんぼりなどの花つくり九時半までかかる。大分気の張り方で大勢集まる。

八月十二日 火 曇

宿題の残りは図画習字、工作の二点となる。午前中もつばら鳥かごつくりとなる。兄の協力がものを言いたちまち二面が出来上がる。まだ三分の二くらいしかできていない。これからがむつかしいのである。

久しぶりに川へいく。先日に雨で増水し流れも早くなっている。

映画を見にゆくが、フィルム未着という変なことで帰ってきた。

小川のお寺まで夕方、墓そうじに行ってきた。

八月十三日 水 晴

お盆

朝からぞろぞろと墓参りに行く人たちが大勢である。いよいよ本当の夏になつてきたような天候になつたが、朝眠りは涼しくなつて上着がきたいくらである。

一日中、鳥かごつくりで三面出来上がる。あますところもう少しである。

八月十四日 木 晴

鳥かご完成。小生が展覧会に出すといつても、兄の手が大分入っている。それでも出すのに変わりはない。久しぶりに川へ行く。

七夕祭りの準備もOK。後は小生らのしし舞にかかっている。この日記帳も残りのページ数があやしくなつてきたので、これから一日おきにかかなくては？・・・。

八月十六日 金 晴

ついに七夕まつり、屋台のひっぱりまわしがはじまる。

八月十八日 日 晴

この頃、金使いが荒くなったような気がする。家に金があるようになれば自然と、金を使うようになったような気がする。十時に起きて朝飯、昼飯が一緒になる。昼からはすぐ泳ぎに行く。

八月十九日 火 晴

まだつかれも取れない。夜の盆踊りがたけなわ。しかし去年より人出は少ないようである。七夕祭りのはんばぎぬぎとやらに出てつかれを落とした。五十円分のお菓子としし舞をおどった人に五十円の金をもらった。二十三日のプロ野球は是非とも見たい。

八月二十一日 木 晴

千代の山一行大相撲

快晴にめぐまれた今日、あこがれの相撲を見にゆく。いつもなら良い顔をしていない母も今日は悪い顔をしなかった。去年よりはにぎやかでなかった地方巡業だが、相撲甚句、初っ切りなどやはり楽しいものであった。結びの一番は千代の山対栃錦の一戦、上手投げで千代の山の勝ち。

八月二十三日 土 曇

プロ野球見物

一週間前から入場券をもらってうれしかった待望のプロ野球見物も今日の怪しい天気最後まではつきりしなかったが、東急、毎日の十三回戦が決定され、三対〇で投球の勝ち。

わずか一時間十分の試合を見るのに朝八時から夜の八時までさわいでいた。新発田にもぎやかだった。何しろ天候が一番我々の気をもませた。

八月二十六日 火 曇

昨日のうちに凶画の宿題は出来る。なんとなく机に向かう気になれず校庭で小学生と騒ぐ。

昼からは「中学コース」の十月号をとる。だんだんと一つ一つの記事がためになってくるようだ。

夕方、小学生と墓場でさわぐ。勉強しなくてはと気づいたのは夕食後、しんけんになってアチーブを数学の予定までがんばる。大分日記を書くのもまばらになってきたようだ。

八月二十八日 木 曇

館野守雄氏

大分また気に食わぬ天気が続いている。館野守雄氏が来るのでさっそく聞きに行く。世界情勢と政治についてはな

しがあつた。大分人も集まり興味のある話であつたが、あまりはやくちなの
で、聞き逃しもあつた。それでも我々のわからないことが、うつすらとわか
つてきたような気がする。

八月二十九日 金 曇

いよいよ夏休みの宿題にあわてるころになつたが、小生はまんざらさわぐ
ことはない。だが習字をもっと書きだすことにする。

夏休み帳の方は、二問くらいわからないところがあるがまんざらでもない。
「英文法」二二〇円の本を読む。

八月三十日 土 曇

朝起きるとどうも体の調子が悪い。昨夜寝冷えでもしたらしい。どうも頭
はくらくらするし、腹は痛む。夜風は冷たいらしい。もっとも秋当然とあた
りの背景は変わっている。

にもかかわらず昼から友達にさそわれて映画「硫黄島の砂」を見る。日本
人は出なかつたが、アメリカの規模の大きなことにはおどろいた。

八月三十一日 日 晴

始まる前は四十日間長いと思つた夏休みも過ぎてしまえばなんのことも
ない。七月から八月の三日までは、少年野球の練習と川かよい。それから十
五日までは七夕祭りの練習で夏休みの大半は終わり。それからあまり良い
天気はなく鳥かごづくりに精を出す。

夏休み帳、アチーブとちよいちよいとして今日に至つたもの。にもかかわ
らず、今日は友達にさそわれて川へ釣りに行く。

九月一日 月 晴

二学期始業式

長いと思つた四〇日も過ぎてしまえば短いくらい。今日からまた十二月ま
でなじみの級友と遊んだり遊んだり、おなじみの森井先生もあいかわらずだ。
九月という月はとかく運動がちで、中部郷、郡の競技大会がひかえている。

九月三日 水

岩船郡の音楽の先生方の講習として一三〇人も先生方の前で、三年生代
表三〇人はモデルとして声を張り上げる。専門の先生方の又上の東京から来

た先生の細かい指導にはまったくまいってしまった。しかしこれで先生に音楽が上手とほめられたのだろうか。

九月五日 金 曇

校内競技大会にそなえてみんな余念がない。小生も砲丸を盛んに投げるが、そうたやすくいくものではない。

またそろそろ金のかかる項目に達し、本代のほかあれこれ一〇〇円はいる。今頃になってバッジなどもくばられるそうだ。

九月六日 土 曇

校内競技大会

曇がちな天候の下で村上中学の選手を決める校内小運動会が開かれた。小雨もぱらついた。小生はクラスの砲丸投げに出て下位の方へ落ちる。初めからこんなもんだと思っていた。一二時を回り一時までは長話があったりで、リレーを最後にこの日の大会は終わり。

九月十三日 土 曇

町民運動会

あやふやな天気の下で、町民運動会が行われた。授業は一時間で終り、すぐグラウンドで学童リレーに出場、予選通過は良かったが、準決勝で小生のおしい転びで失格に終わる。小生は障害物競走にも出たが一番びり、その他障害物競走にも出たが一番びり。

その他年齢別リレーで小町は三着、四〇〇リレーも同じ。最後には和やかな仮装行列があり、大熱戦も展開したのに午前中の大雨は惜しいものであった。

九月十六日 火 曇

中部郷陸上大会

一日延期されたが今日の運動会は神納中学校で行われた。各種目とも圧倒的に強く優勝したものの応援は完全に他校に負けた。てんで問題にならないグラウンドも雨がたまってカーブの所で走者は相当苦労したであろう。

すぐ近くに山があり外での昼飯の味は本当に格別であった。

九月十七日 水 晴

案の定、今日は先生の小言で始まった。昨日の応援ぶりだけがしかられたのではない。生徒会が自主的でなかったということであった。放課後に応援

の練習があり大分熱心にやり上手になった。三年男子はしかられた。

九月二十日 土 晴

岩船郡運動会

中部郷にひきつづき日の照り輝く中で、小生は応援係で進行、選手たちもがんばったのだが、四月から練習していたという金屋中学に負けてしまった。応援団の諸君もよくやり、小生はノドをいたためてしまった。

九月二十一日

大相撲がまたもや始まった。ラジオにこびりつくわけだが、今場所はそうはいかない。ラジオが部屋のまん中にある。四本柱もないというのに、この小生のファン羽黒山・吉葉山などはいかにたたかうのだろう。

九月二十八日

衆議院議員選挙戦たけなわ。村上町から立候補している稲葉修は前回よりも苦戦を続けているようだ。今日も小学校の講堂で立会演説会があり聞きに行く。今まで会った演説会には欠かしたことなく毎日のように行っていた。

十月一日 水 晴

衆院総選挙

選挙が花火の合図ともに行われた。公明選挙がとえられた二五日間、国民の投票する日は今朝から出足よく特に婦人が目立つ。

これでやっとなんだかほっとしたような気分になる。同時に裁判官の国民審査もおこなわれている。

二期期の終わりまで試験が週の三回続けるようだ。にもかかわらず、毎日のようにラジオの相撲を聞いたり、グラウンドでさわいだり勉強の方は一向に手が出ない。それではいけない・・・。

開票終り頃で当選者が決まったみたい。(中間得票数)

(当) 渡辺良夫	自由	五三、〇〇〇
(当) 井伊誠一	社右	四九、〇〇〇
(当) 富岡大輔	改進	三九、〇〇〇
(当) 佐藤芳夫	改進	三五、〇〇〇
(次) 稲葉修	改進	三五、〇〇〇
石田有全	社左	〇〇、〇〇〇

安中忠治 自由
湯浅豊治 共産

十月三日 金 雨

学校の一大行事、運動会が道具を運んだのに雨のため中止となりぼうぜんとなった。小生らは応援係をしているが、去年のような派手な応援は考案されていない。

十月四日 土 晴

大運動会

やっと今日、村中の運動会があった。
二点の差で白軍の勝ち。

十月五日 日 雨

教育委員選挙

約一か月も日記を書くのをサボってしまった。書こう書こうと思っていたのだが、ついめんどうになっていた次第。

今日はこの間の選挙につづいて教育委員の選挙が行われた。県では児玉・玉井・斎藤。町では益田・宝田・須貝・板垣と決まる。

十月十日 金 晴れ

ダム見学

小学校の運動会も雨のため一日のびて今日に行われた。そこで我々中学生は秋季遠足として三面のダム見学に行った。(一年は間島へ) 小生も初めて見る大きさに今さらながらおどろく。バスで往復したのだがそうしたいして遠くはない。村上町の町民として大変良い参考になったと思う。

十月十三日 月

学力試験始まる

今日から二学期の終わりまで、毎週一日おきに試験が行われることになった。これは基礎知識を身につけるためだが、毎週にはおどろいた。今週は月水金、来週は火木土。始めの今日は六六点でこのあとがおもいやられる。

十月十七日 金

第八回補導委員会

前期役員最後の補導委員会がある。議題として役員の改選がおもなものであった。さっそく生徒会の役員立候補には全員たつことになり、今日これを

告示。小生もだいぶ人気のあるはずだが、ちよつとあやしい。しかし小生は生徒会の役員なんてがらにあわず、なりたくない。

十月十八日 土

学級委員選挙

今日は学級の役員の選挙。これは後期である。小生も後期はあやしいと思つたが、他を断然引き離してトップとなる。また前期にひきつづき委員長に選ばれる。

委員長

小生

副

木村千鶴子

学級委員

高橋 勇

飯田 勝

舟山 静

板垣 博

高橋敏夫

と学級役員に一人の変更があるだけだ。

十月十九日 日

たまの日曜ゆっくり映画でもと松竹館のモーニングショウを見にゆく。西部劇の二本立て「荒野の決闘」・『オクラホマ無宿』。

昼から新潟県の最強チーム葛塚の少年野球チームが村上の少年野球と試合した。後樂園まで行ったことのある葛塚はやっぱり強くならうところが多かつた。

十月二十日 月

文化祭も近づきその用意におおいそがし。だいぶ秋もまったただ中になり、お城山も色づいてきた。観光地となるために工事しているお城山も、大分りっぱになる。

ちよつと小鳥をかいきたいときに、兄がひばりをつかまえてきた。すぐ死ぬと思つたがまだ元気にあばれていた。

十月二十一日 火 晴

生徒会役員選挙

文化祭に出す統計図表の作成に手伝う。
今日後期役員の選挙があった。小生は当選しないように願っていたのだが、

いざ落ちてみると、やっぱりくやしいような気がする。

当選は 佐野武、伊予部登、岡村恵美子

十月二十二日 水

文化祭の用意でおおいそがし。小生は学校から図画を書いてくれとたのまれているが、どうもこれも文化祭に出す統計図表の方に力が入る。統計図表の作成は共同募金の統計である。図画の方はこの前書いた墨絵でがまんしてもらおう。工作も夏休み中に作った鳥かごが出るはず。

十月二十三日 木 曇

まだひばりは生きている。十月五日からの日記を今日書く。まことに長い間サボったわけだ。我ながらあきれて感心する。今日も統計の仕事で手を真っ赤にしながらかくなるまで学校にいる。文化祭の図画も書かないことにした。

今日の試験は理科で四十一、ほんとうにあきれてしまった。

自由党のゴタゴタもやつとおさまったようだ。明日の国会召集は聞きもの。

十月二十四日 金 晴、雨

あと一週間でも十月も終わる。早いものである。文化祭もせまり高校は始まった。演劇をはじめ大したものである。毎年同じというものの我々には珍しいものである。小生らの書いている統計図表も完成に近い。

十月二十五日 土 晴、雨

文化祭に出す統計図表がだいたい出来上がった。各クラスとも町長賞をめざして一生懸命である。土曜の午後もあいかわらず講堂は満員である。特に籠球のさかんになったこと。夕方までにはシャツがびっしょりになる。

風が強くなってきて戸ガタガタ鳴り出した。父がいけないというのに心配だ。今日は母たちの部屋で寝る。ここはラジオがあるので本などは見られない。「とんち教室」に笑いながら寝る。

十月二十六日 日 雨風

今日は朝から典子を相手にお手玉やその他でさわいだ。

母にいいつけられたことがまだしたくなく三日にもなる。

十月二十七日 月 曇

文化祭に出品する統計図表を出す。

今日委員の任命式があり小生は委員長に選ばれる。

十月二十八日 火 雨

家庭のなやみがしんこくになってきた。これも小生のわがままからだろうか。

十月二十九日 水 曇

一市郡二郡陸上競技大会

朝のうちちよつと雨が降ったが、一市二郡の陸上競技大会は保内中であつたらしい。村上中の選手諸君の健闘を祝す。試験があい変らず行われている。今までの平均点七十四・五。まだまだこれでは委員長の資格はない、がんばろう。

十月三十日 木 晴

せつかくの統計図表もだめだったらしい。ざんねんである。校舎も町の文化祭の会場になるのでその準備でいそがしい。去年と同じく農林業の品評会会場になるらしい。マツダランプ祭の演芸会を見に行く。人は少なかつたけれども面白かつた。

政府の第四次内閣が決まる。

十月三十一日 金 曇

町文化祭の用意のため早く放課になる。文化祭農産物は次々と到着した。ヒバリのエサにもよういでない。明日からはいよいよ文化祭が幕開く。

十一月一日 土 曇、雨

早くも十一月、あと六十日で昭和三十六年も終わるのである。本当に早い。日記もたまに休んだが、あれから十か月になる。

長らく準備していた用意OK、今日から三日間の村上の文化祭は開幕した。毎年同じものというけれど、やはり面白く、ためになり、娯楽も満点。特に

電気展はためになる。

映画「成吉思汗」を見に行く。

十一月二日 日 晴

文化祭二日目。天気も良く、人出も多く特に田舎の人が目立っていた。さきほど新潟へ行った益田道夫君が帰ってきた。

小生も勉強はてにつかず、一日中お城山へ行ってみたり、学校を何回となくまわったりして一日を過ごす。

十一月三日 月 晴

文化の日

今日は文化の日であり国でも県でも文化功労者の発表などが報じられていた。さて村上町産業文化振興祭は今日で最後、昨日にまさる人出。農産品の方ではもう片付けている。しろうと浪曲大会がありとても面白かった。競書コンクールには落選。

十一月四日 火 晴

四日ぶりに学校に行く。まだ文化祭のあとで汚れている。学校に来たときに試験である。学校から帰って、勉強しようと思っても、つい子供たちといっしょになってさわぐ。

夜勉強しようと思って机に向かったがすぐ寝てしまい電気をつけたまま十二時を過ぎていた。

十一月五日 水 曇

朝学校に行ったらもう始まっていた。今日のテストでようやく七九点、あすで八十てんにはいらなくては。この頃はテストのことでいっぱい日記に書く記事も少ない。そしてつい忘れがちになる。

アメリカの選挙でアイゼンハウワーの大勝利。高校も中間試験中。

十一月六日 木 晴

水野先生栄転

今日のはめずらしく早く起きて校庭で庭球をやる。とてもおもしろい。そして早起きというものは気持ちのいいものと今さらながら気が付く。

今日は教頭であった水野先生が黒川侯の中学へ行かれるので生徒代表の

我々は駅まで見送りに行く。

第一回の補導委員会があり、小生は会計係りとなる。

十一月八日 土 晴

クラブ活動の前期最後の追いこみとなったが、今日は野球、排球の新人大会があり我々は見物人となり応援をした。

帰ってきてから借りた庭球ラケット握って校庭でさわぐ。

十一月九日 日 曇

朝起きて学校でバスケットとテニスとでめしまえにさわぐ。

江見君のところまで小鳥を買いに行ったが、小生の気にくわぬ小鳥ばかりで買う気にならなかった。しかたなくとなりの勇君と共同で小鳥のメジロを買う。そのメジロでさつそくお城山のうらへ呼びとりに行ったが一匹も姿を見ないで帰ってきた。

十一月十日 月 晴

立太子成人式

今日は祝日である。学校も早めに放課、皇太子殿下のお祝いである。学校の先生方はグラウンドで運動会をしている。

十一月十一日 火 晴

皇太子の写真で見た姿はなんとなく古式で、非常にりりしいすがたであった。国語の試験に九十点をとり気をはいた。やつと平均点八十・〇七までこぎつけた。帰ってきてから勉強しようと思ったが、何できるものでなく柔道を見たりしている。後期のクラブ活動は何にしたらよいか迷っている。

十一月十二日 水 曇、風

数学のテストにはべったりした。何と三十一という恥ずかしい成績、もちろん父母にもだまっている。今日一日何にも面白くなかった。委員長でこんな点を取ったのは小生一人だろうと痛感した。たいしてむつかしくはなかったのだが、不注意とあわてたことが原因であった。

十一月十三日 木 雨風

昨夜来の強風強雨にすっかり冬らしくなる。それに気温がぐんと低下し火の気が恋しくなってきた。もつとも一か月前からこたつにかぶりついていたのだが。

この間の産業文化祭につづいて、今度は我が村上中学校の芸能文化祭が行われることになった。小生も図画工作習字をだしたいが一、二年の時のようにうまく書けなくなったよう。これもあまり気を張っていない証拠である。

十一月四日 金 曇

昨日にひきつづき気温がぐっとさがり、冬を思わせる気候となる。時間中も手足の先など感じなくなる。

運動後ぼかばかあたたかくなり英語の試験にのぞむ。予想どうり相当むつかしい問題が多く出た・後からの図画、音楽のテストは両方とも九十点以上の点に満足。

文化祭にやる劇の打ち合わせがあったが、さっぱり進展がない。こんなことでまたあとのことか思いやられる。

十一月十五日 土 曇

小生のかつているひばりはまだ元気である。かうのがなんだか面倒になつたような気もする。

クラブ活動はまだ前期と変わりなくやっている。早く変更が望ましい。小生は柔道部を希望している。大分盛んになって、明日は一市二郡の柔道大会が新発田で行われる。

村上中学校の芸能文化祭には、三年の小生らでまた何か演劇をすることに。今日も打ち合わせがあったが、主役その他の問題ではつきりしない。

十一月十六日 日 晴

朝から集まって劇の打ち合わせをすることにしたが、いっこうに具体案は出ない。また明日に延期というわけ。桜ヶ丘の文化祭を見に行つたがたいして面白くもなかった。図画なんかとてもみられない。

小鳥をもつて山に行つたが結局むだに歩いたにすぎない。

十一月十七日 月 雨、曇

ようやく文化祭にする劇が決定した。「魔王」という劇で小生が魔王役である。この劇は病氣の子供が医者に行く途中魔王が出てくるという一種の悲劇である。

他に出る人は、伊予部登 益田功子 宮本哲夫 山貝ユキ子
岡田勝 渡辺栄子 坂川敏美

十一月十八日 火 雨、曇

今日は朝から親類の結婚式でいえにはだれもいない。学校から帰ってきてもいなかった。

お仲間として加賀町から庄内町へ、庄内町から加賀町へとあちこちいそがしく歩き回っているらしくてご苦労なことだ。

小生はいたつてのんきに遊び半分留守番だ。今週は文化祭の用意で卒業準備テストはない。

十一月十九日 水 雨、曇

昨日つかれたのか小生が起きたときはまだ両親は寝ていた。さまざま料理や菓子がたくさんあるけれど食べ放題とはいかない。

劇の練習を毎日やっている。あまり良い劇じゃないのか活発にならない。文化祭に出す図画を大急ぎで書き習字をゆつくり書いていねいに書いたつもりだ。

十一月二十日 木 曇

だいぶ秋もふけて冬の足音が聞こえてきた。裏の木もすっかり葉を落とす冷たい風が吹くようになる。北海道ではもうとうに雪が降っていることだろう。青森にいる兄の事が思い出される。

今の小生は小鳥にきょうみを持ち始め、そして演劇の練習にはげんでいる。これが終わつたらもつぱら柔道で体をきたえたい。しかし試験も長くつづくだらう。

十一月二十一日 金 晴

きつちりと劇の練習をやつたのはきょうぐらいである。夕方暗くなるまで阿部、大滝それに板垣、本間先生らにしっかりと演技つけられた。だんだん

自信もつき、よし三年生最後の劇だし、しつかりやろうとみような力がわいてきた。

十一月二十二日 土 晴

村中文化祭

いよいよ文化祭がはじまった。今年は図画は図画、習字は習字、工作は工作と別々の部屋に分けての展示であった。

それで去年にくらべて何かあきつぽかったが、図画工作さいほう、習字といずれも上向いたようにもおもわれる。小生の図画工作習字はいずれも失格。それでも特別教室には堂々と小生の墨絵があった。

十一月二十三日 日 曇

練習、練習を重ねた演劇も今日が最後である。昼前、生徒に見せて午後から一般の人に公開した。一年二年と進んで最後に我々三年生は「魔王」を演じた。

わずかの練習期間にもかかわらずたいへんりっぱにできたと思う。小生の魔王も精いっぱいやっただけだ。これもみな先生方のおかげと今さらながら先生方に感謝している。

十一月二十四日 月 曇

今日の休みこそは山へ行って小鳥をとってこようと思ったが友達がそろわずお流れ。昼からはカスミ、空気銃とともに土手に行ったが、一匹も見当たらない。

十一月二十五日 火 曇、雨

文化祭でつかれた体をもっと長く休みたかったが、また学校へ今度は文化祭の気持ちをつまでも持っていないで試験の準備にそなえよう。といつても思っていることは思っているのだが、なんとなく思うようにいかない。

きのうは土手に行っても小鳥はいない。二ヶ月くらいかったヒバリはネコにとられ、もう小鳥をかうことに終止符をうたなくては。

十一月二十六日 水 晴

久しぶりの快晴である。とても気持ちが良い。昼休みに裏へカスミをはっておいて帰ってきてみるとシジュウカラがかかっていた。あまりのぐうぜん

におどろいた。気を良くして長く待っていたがいつこうに小鳥の姿はない。明日の朝早く起きることを約束してねる。あすからまた試験がはじまるがいつこうにかまわれない。

十一月二十七日 木 晴

朝起きたときは真つ暗であった。風が冷たく手がいたくなるほど。かすみをはつたがこれがいけなくもつれてしまった。やつとはり終ったときには日が出て、ところどころに大きな穴があいていた。とても悪いことをしたと思ったが、今では後のまつり。

十一月二十八日 金 雨

三面川の総合開発の工事も完成したもよう。その記念式が十二月一日に小学校であるようだ。家の前に大きなアーチがたてられた。

昼から柔道をやり柔道の選手に巴投げで一本やれたのはとてもみごとであった？。

先生からないしよで試験の答案の集計を言いつけられ今さかんにしている、

十一月二十九日 土 晴

今日文化祭出品の優秀者に賞状をくれたが小生は一枚ももらわなかった。中には三枚ももらったものもある。せめて劇に出たものにもくれてよいものと先生もいつている。

やつと後期のクラブ活動の改選があり小生はまちがいなく柔道部ときめた。明日は籠球、卓球の一市二郡大会が新発田であるので選手は参加する予定。今日は昼から映画を見に行く「タルファ・テキサス人」。

十一月三十日 日 晴

朝起きて宿題でも試験勉強でもしようと思っていたら、裏でなじみの小鳥仲間、舟山義男（中二）、佐藤勇（高三）の二人がいる。小生も連れられて通称「ジンザ」の小鳥商人宅へいく。昼から共同飼育をやめるためにもう一匹のメジロを買った。これで小生も楽に飼えるわけである。

一日中小鳥のための心配、鳥かごのこと、エサづくりなどをする。結局勉

強の方はうとうととする夜中である。

十二月一日 月 晴

いよいよ十二月になった。日記を書き続けてからはやもう一年になる十二月だ。あともう三十日で一九五二年も終わる。最後をりっぱにかざらなくては……。

籠球のシーズンになり今日から校内籠球大会がはじまった。一年生もやっている。小生の組はあまり良い選手ではなく期待はできない。去年の善戦が思い出される。

十二月二日 火 曇

いよいよ本当に冬になったようだ。雪こそ降らないが外は本当に冷たい。小生の組には柔道のすきなものがある。その人たちといよいよ柔道をすることになる。柔道着を学校から借りて警察の道場ですることになった。今日その第一日目、誰も来ないので我々五人は、自由にとびまわった。おかげで体がぼかぼかあたたかい。しかし夜は冷たい雨風が吹いてきた。

十二月三日 水 雪

初雪

朝起きてみると一夜にして銀世界。昨日の寒さで今日は雪降ると思っていた。昨日から始まった校内籠球大会のクラス選手として今年も出場。

メンバーは

C 近藤衛、G 高橋勇、斎藤章 F 町野要雄、渡辺差太夫

第一戦は軽く三〇対七と四組の勝利

十二月四日 木 雪

朝から雪は降りつづいている。積雪二〇センチくらいである。うらの南天ははだいぶたおれた。早くから困いしておけばよかつたと思つたがそれも後のまつり。いつも母から言われていることだ。

学校から帰ってきて雪はまだ降っていた。

今日は籠球大会に関係なく、我々五人はまた警察の道場で柔道をした。今日は、けががあつたがたいしたことはないすり傷だけ。

十二月五日 金

籠球は小生の組、八組にかかるく負けてしまった。負けることはわかつていたが、やはり負けるとなんとなく面白くない。

メジロのエサつくり用にと小さなすり鉢をかってきた。かんじんのメジロはけがをして、かっこう悪い小鳥になってしまった。

十二月六日 土 曇

校内籠球大会の決勝がそれぞれ行われた。

一〇〇円出して買ったメジロが猫にひつかかれて、足がぶらぶらしている。かわいそうで迷惑でもある。毎日のエサつくりもよういでない。

十二月七日 日 曇

雪は降らないがまだ消えないで残っている。気温が冷たいせいだろう。またふる様子もない。こんなで正月を迎えたらどんなによいだろう。宿題、試験勉強をしようと思つても遊ぶほうに気をとられる。

映画をみる。「新弥次喜多道中・花婿花嫁キャンベエ節」

十二月八日 月 曇

明日から試験がはじまるというのに、母の止めるのも聞かないで、映画を見に行く。「明日では遅すぎる・にがい米」。帰ってきて二日も続けて見てしかられた。夜勉強しようと思つたが国語の本ちよつぱり読んだだけ。

十二月九日 火 晴

久しぶりに太陽の日がさした日である。年末の忙しさも町中にぼつりぼつりと見え始めた。

学校一斉に学期末一斉テストが国語、図画でもってはじまる。

十二月十日 水

今日のテストは数学、五度めの百点をとる。

かたわになつたメジロはまだ生きています。死んでくれれば迷惑なくてよいのだが、百円出したんだぞと思うと殺したくない。何とかして元どうりにさ

せようと毎日エサをやっている。

十二月十一日 木

試験の日程は進む。 社会、音楽

十二月十二日 金 曇

一斉テストの最後の日。残ったのは英語と理科の不得意学科。しかし七十
六と八十六点でまず悪いとはいえない。

開店早々のパチンコ屋は近所の青山さんの店だが、はやることはやること
満員である。これもはじめの内だけかもしれない。またこの前みたいに自殺
なんかしなければよいが。

十二月十三日 土 曇

やっと試験が終わってほっとした次第。今日は学業に関係のない人の名前
のテストがあった。

だいぶ柔道も盛んになってきた。小生もところどころに小さな傷を受ける
がやめる気にはならない。

夜の八時半頃急にサイレンが鳴り、神納の方に火事があったらしい。ここ
からも赤く空が染まって見えた。

十二月十四日 日

東神納の小学校が昨日全焼した。本当に恐ろしいものである。今晚もだ
いぶ風が強いが注意を要する。

十二月十五日 月

十二月丁度まん中、今学期もあと十日、何から何まで最後の締めくくりで
はとさわいでいるのに、柔道部に入った小生は警察通いもやめて学校でする
ことになった。

十二月十六日 火

十二月というのにそんなにひどい寒さを感じない。今日も平年より六度も
高いそうだ。それにもかかわらずストーブをすえたとなるとどうしてもたか

なくてはとなって赤々ともえている。

十二月十七日 水

今日は昨日と違って寒かったような気がする。教室ではガタガタ震えてい
るが、教務室では先生方は上着をぬいでいる。

日教組では年末手当のベースアップを要求して午後から休みとなった。

十二月十八日 木

時事問題を二つ、三つ

- 電産・炭労スト長びく
- 国会補正予算案、衆院通過
- 鹿地事件
- アイク・マック会談
- 新発田分校問題
- 自由党の内紛

十二月十九日 金 曇

この間の寒さも今は消え十月頃の気温だという。

速記の本をかりたがこれほどかんたんで、むつかしいものはない。
ここに小生の名前を書く

十二月二十日 土 雪

だいぶ日記もサボったようだ。試験も終わったしゆっくり書こうと思っ
ている。足にちよつとけがをしたが、好きな柔道はやめられずきょうもやる。
大会をまじかにひかえて日ごとに人数もふえてきた。

十二月二十一日 日 吹雪

朝起きたときは冷たい風が吹いていた。ぐあいのわるかったメジロも小生
がエサをやるのを忘れていて今朝見たときは死んでいた。思えばこの小鳥を
かったおかげで三百円くらいはかかっている。いくら好きだからといってあ
まりにもむだ使いしたと家の人にすまなく思っている。

映画を見に行くのは日曜のモーニングショウが楽しみである。今日も昼か

らのこのこ出かけた。今年になって映画は何本見ただろう。今日の映画は「赤い河・駅馬車」

十二月二十二日 月 吹雪

学期末で先生方も忙しそうだ。はたして今学期の小生の成績はいかに。二階に下宿している女学生のところへは一回も顔を出したこともなかったのだが今日ひよっこり遊びにゆき十時までトランプ遊びをした。女の友達と遊ぶのも悪くない。

十二月二十三日 火 曇

今日もまた午前かぎりで放課。しかしまたも森井先生に出席調べを言いつけられ、試験成績につづいてたくさんになる。

昼から十円の安映画を見る。「歌くらべ荒神山・七色の花」。

十二月二十四日 水 雪

朝起きてみると今月の初めころから産みはじめたにわたりの卵があった。三匹いるのだがまだ一ツ匹だけしか産んでいない。母が毎日世話をしているので母に食べさせたい。

将来のことについて母と語り合ったが、結局大学の工業の方、建築科の方に希望することにした。

十二月二十五日 木 雪

第二学期終業式

雪が降りつづいて二十センチにもなる。いよいよ根雪になりそうだ。

今日で二学期も終わりのよいよ冬休みだ。一九五二年もあますところ一週間最後の美をかざらなくては。長兄も三十日には青森から帰ってくるそうだ。この冬休みは過去三年にはみられなかったほどの休み期間にしてやるうと思っている。まず正月というが、今の小生としては勉強第一だとおもっている。

十二月二十六日 金 雪

雪が大分降りだした。冬休み第一日は宿題の勉強に一日がくれた。理科の

多問題と社会は一応解答終り。数学が残っている。後で帳面にきれいにうつそう。

十二月二十七日 土 雪

雪は三十センチくらいに降り積もる。父は忘年会に酔って帰ってくる。だいぶ良いきげんらしいが、やはりきがきでないらしい。

夜父兄会があり新年会の打ち合わせがあった。小生も出席しているいろいろ相談した。最後の子供会もあるので何とかさわぎたい。

十二月二十八日 日 雪

今日こそ母に示られないで見せようと思ったが、やっぱり使いのことでしかられた。毎日のようにしかられる。母もしゃくになるのも無理もない。もう年の暮れだたまには母のことも何か喜ばしてあげたい。

宿題の方は今日までの計画だったが、なかなかかどらずまだできない。加賀町の木村さん宅へうすときねを借りに行く。夜の十二時まで起きていたが、かんかん音を立てて消防自動車がまわっている。

十二月二十九日 月 雪

雪がひどくふり積もり六十センチにもなり、十四年ぶりだそうだ。宿題の方は今日で完全に終わり。高校入試の準備のために本読みでもしよう。今日もまた母に示かられた。この分だとあまり良い正月がむかえられないかもしれない。

十二月三十日 火 雨

あれほど降りつづいた雪も雨と変わる。名残惜しいこの日記帳もこの一頁だけとなった。兄も今日の三時の汽車で青森から帰ってきた。ちようどもちのつき終わったあと。小生も初めてであったが、三うすもついた。

十二月三十一日 水 雨

大晦日

いよいよ一九五二年も最後の日である。風呂に入ったあと久しぶりに一家七人で夕食時をした。親子でさかずきを交し合い父もたいへんうれしそうだ

った。
ラジオを聞いてそれからそばを食べたりして夜宮へいこう。
もう今年は何時間もない。